昭島市　市民意識調査
概要版

平成31年１月

昭島市

市民意識調査概要版は、平成30年８月に実施した「昭島市　市民意識調査」報告書を要約したものです。

〈調査の概要〉

（１）調査地域……昭島市全域
（２）調査対象……昭島市在住の満18歳以上の個人
（３）標 本 数……3,000人(男女各1,500人)
（４）抽出方法……昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
（５）調査方法……郵送配布、郵送回収
（６）調査期間……平成30年８月８日（水）～平成30年８月27日（月）
（７）有効回収率…48.1％

〈調査項目〉

昭島市　市民意識調査は、次のテーマについて調査した。

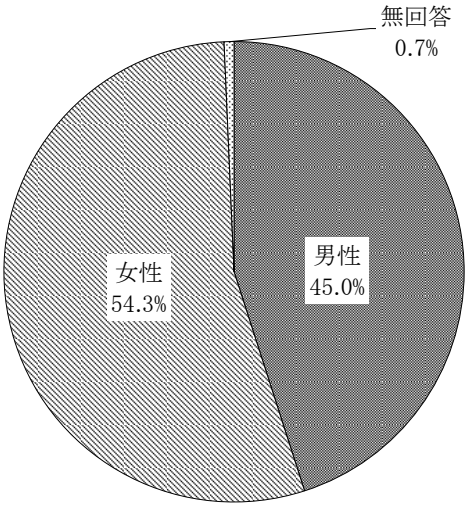
（１）定住意向
（２）暮らしの満足度
（３）災害対策
（４）交通環境
（５）日常生活
（６）地域活動
（７）生涯学習
（８）環境
（９）昭島市の水道水
(10) 昭島市のまちづくり
(11) 昭島市の将来都市像
(12) 少子高齢化
(13) 男女共同参画
(14) 働き方
(15) 国際交流・多文化共生
(16) 市政と市民
(17) 公共施設

本概要版を見る際の注意事項

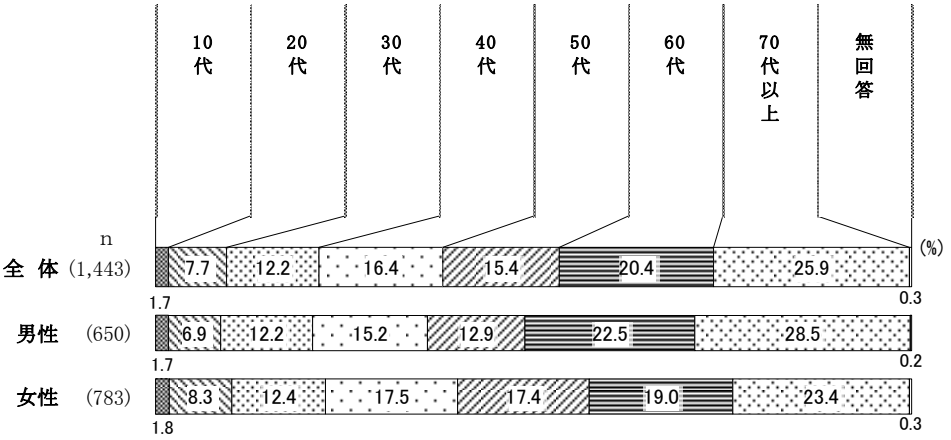
（１）集計は小数第２位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100％にならない場合がある。
（２）回答の比率（％）は、その設問の回答者数を基数ｎとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100％を超えることがある。
（３）本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
（４）ｎ（Number of Casesの略）は比率算出の基数であり、100％が何人の回答者数に相当するかを示す。

回答者の属性

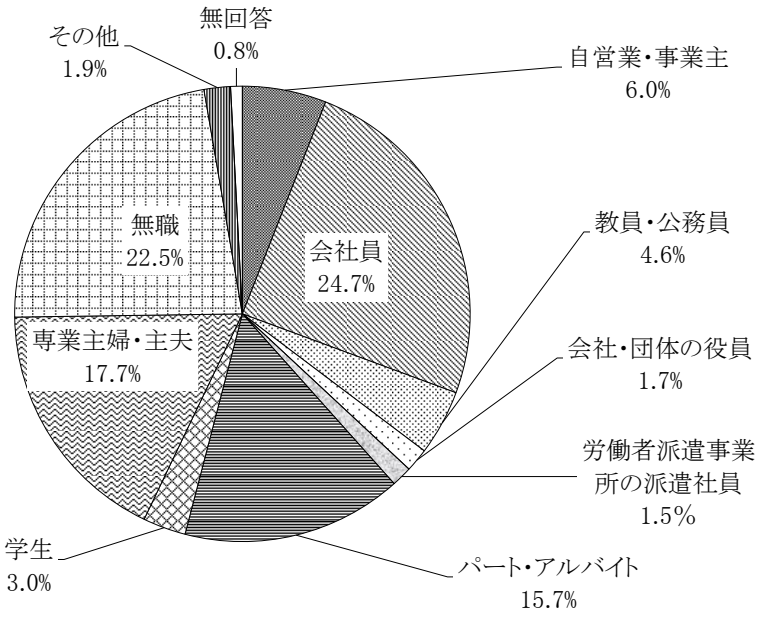
性別



性・年代別

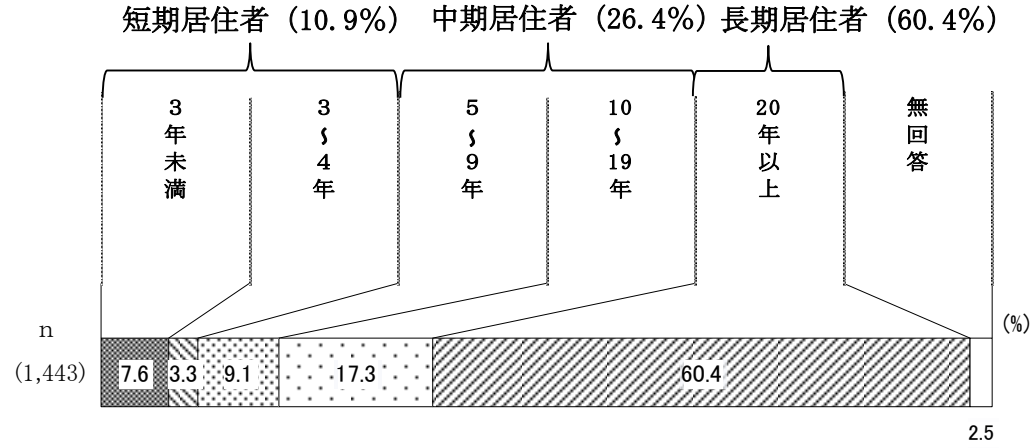


職業



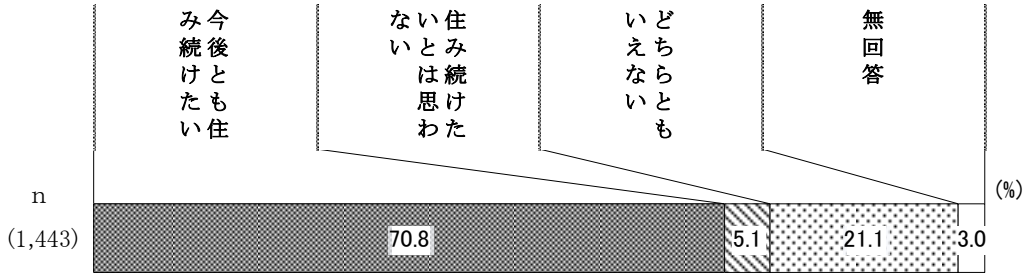
１．定住意向

（１）居住年数



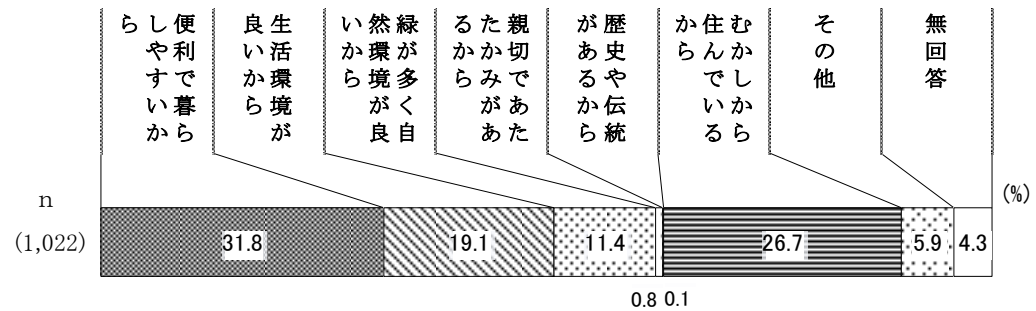
「３年未満」（7.6%）と「３～４年」（3.3%）を合わせた『短期居住者』（10.9%）が約１割、「５～９年」（9.1%）と「10～19年」（17.3%）を合わせた『中期居住者』（26.4%）が３割近く、「20年以上」の『長期居住者』（60.4%）は約６割となっている。

（２）定住意向



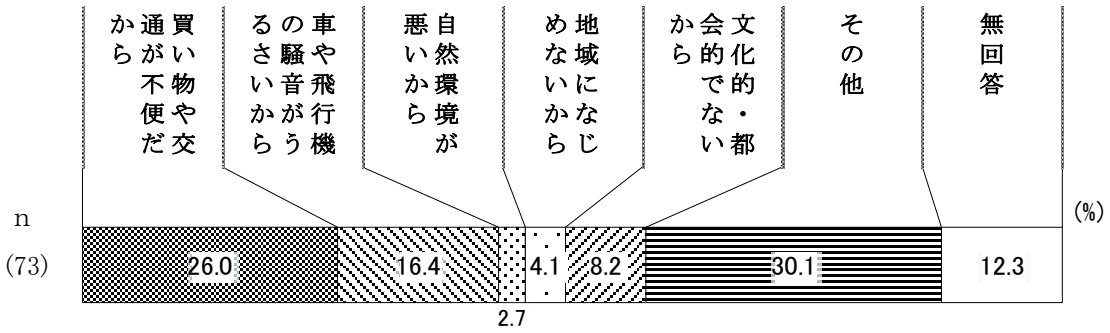
「今後とも住み続けたい」（70.8%）が約７割となっている。また、「住み続けたいとは思わない」（5.1%）は１割に満たない。「どちらともいえない」（21.1%）は２割以上となっている。

（３）住み続けたい理由



「便利で暮らしやすいから」（31.8%）が３割以上で最も高かった。以下、「むかしから住んでいるから」（26.7%）、「生活環境が良いから」（19.1%）、「緑が多く自然環境が良いから」（11.4%）の順になっている。

（４）住み続けたいと思わない理由

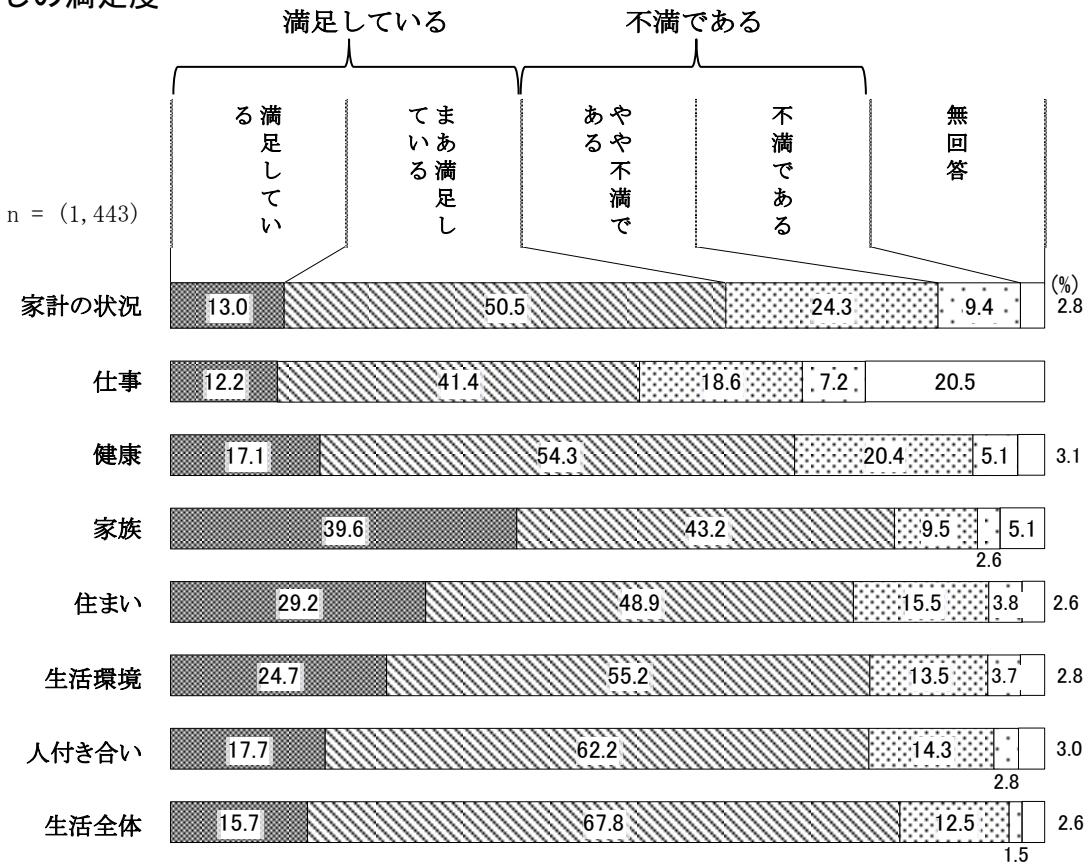


「その他」（30.1%）が約３割で最も高かった。

選択肢に理由があるなかでは、「買い物や交通が不便だから」（26.0%）、「車や飛行機の騒音がうるさいから」（16.4%）、「文化的・都会的でないから」（8.2%）の順になっている。

２．暮らしの満足度

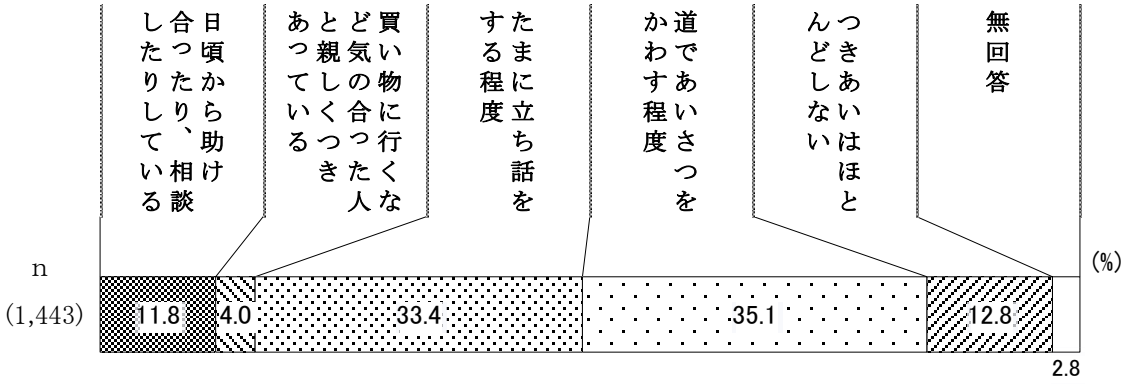
（１）暮らしの満足度



「生活全体」では「満足している」（15.7%）と「まあ満足している」（67.8%）を合わせた『満足している』（83.5%）は８割以上となっている。一方、「やや不満である」（12.5%）と「不満である」（1.5%）を合わせた『不満である』（14.0%）は１割半ばとなっている。

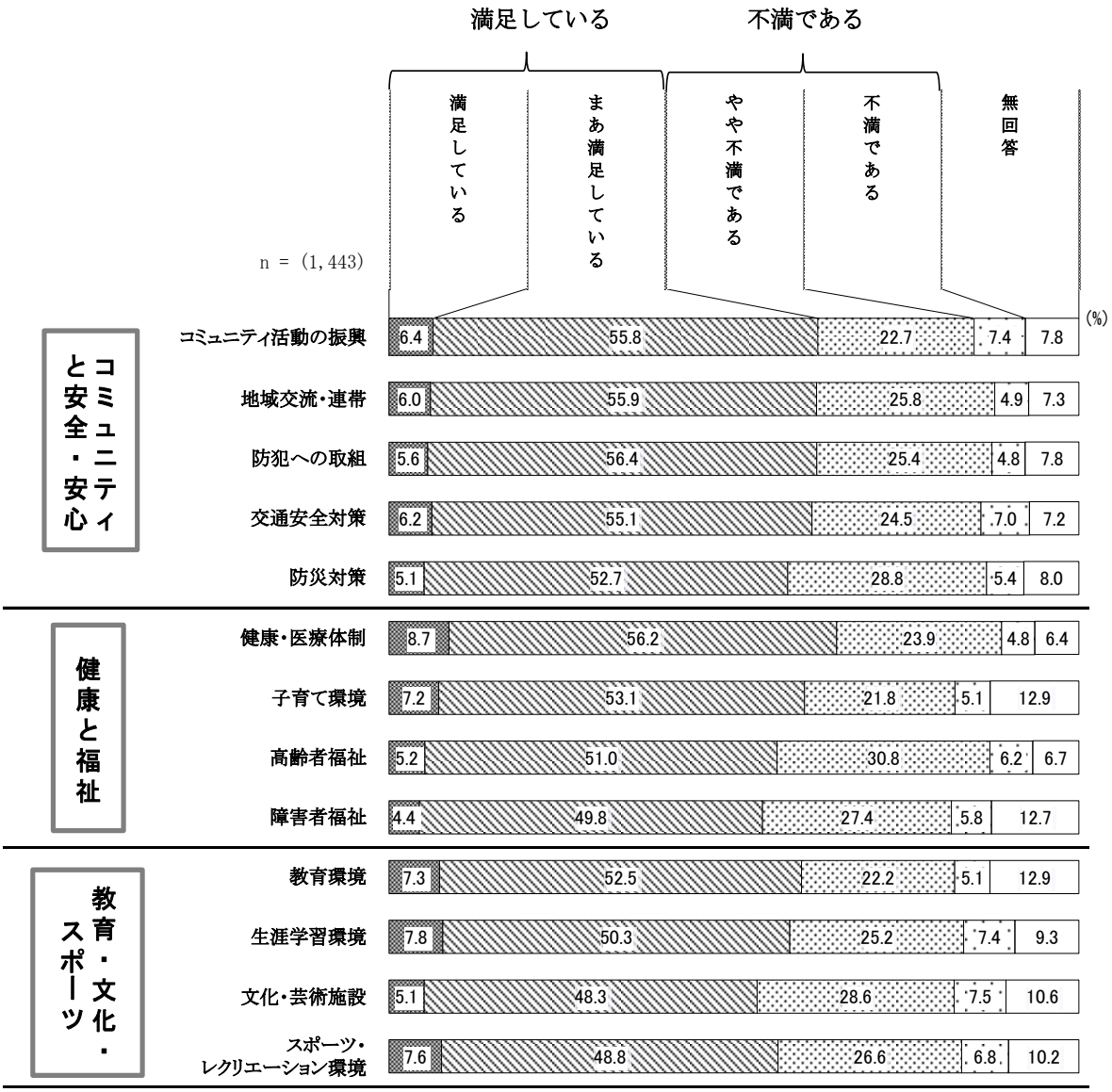
また、『満足している』と回答した割合が高い項目は、「家族」（82.8%）となっている。一方、『不満である』と回答した割合が高い項目は、「家計の状況」（33.7%）となっている。

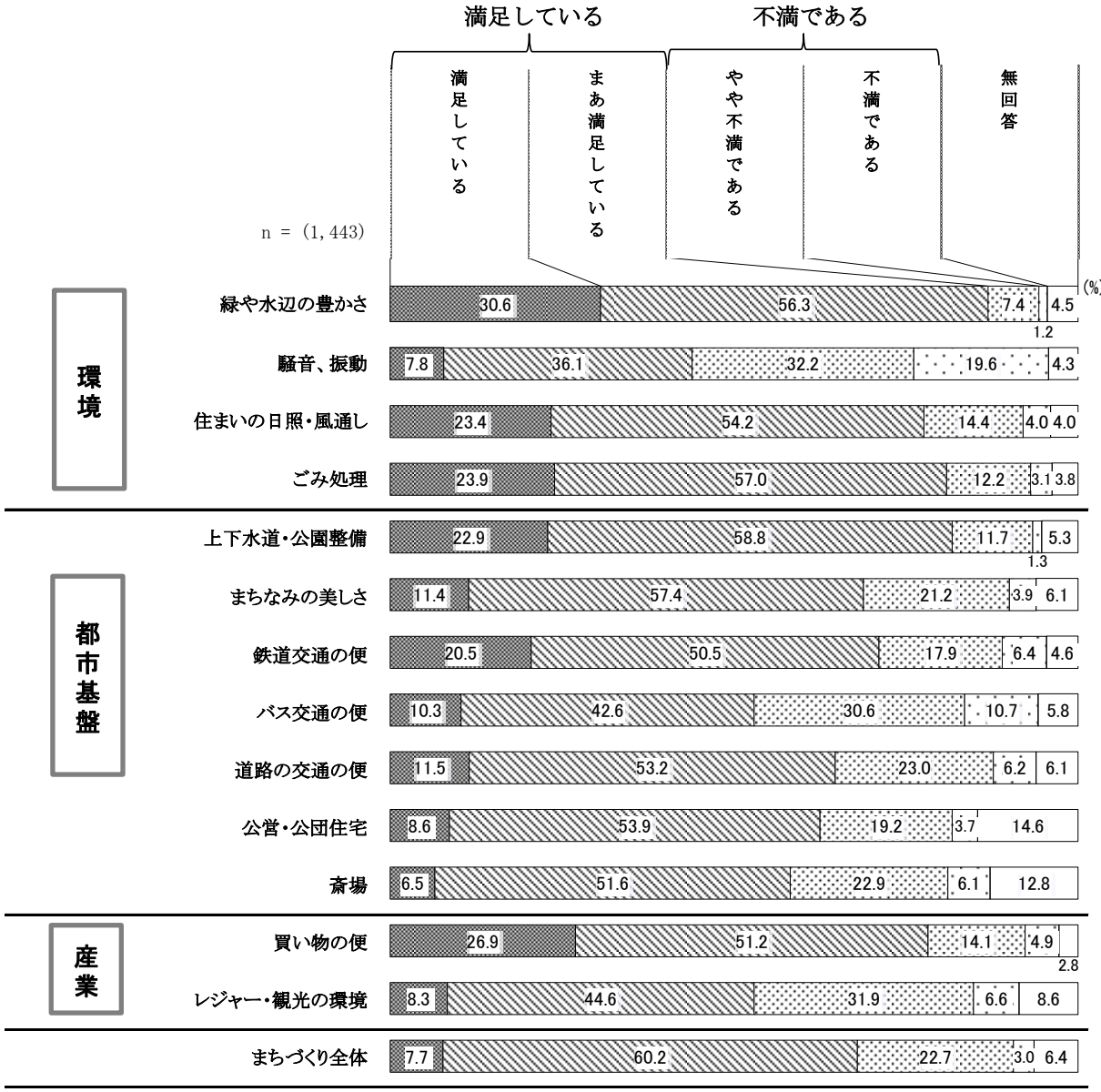
（２）近所付き合いの程度



「道であいさつをかわす程度」（35.1%）が３割半ば、「たまに立ち話をする程度」（33.4%）が３割以上で高かった。以下、「つきあいはほとんどしない」（12.8%）、「日頃から助け合ったり、相談したりしている」（11.8%）の順になっている。

（３）市のまちづくりへの満足度



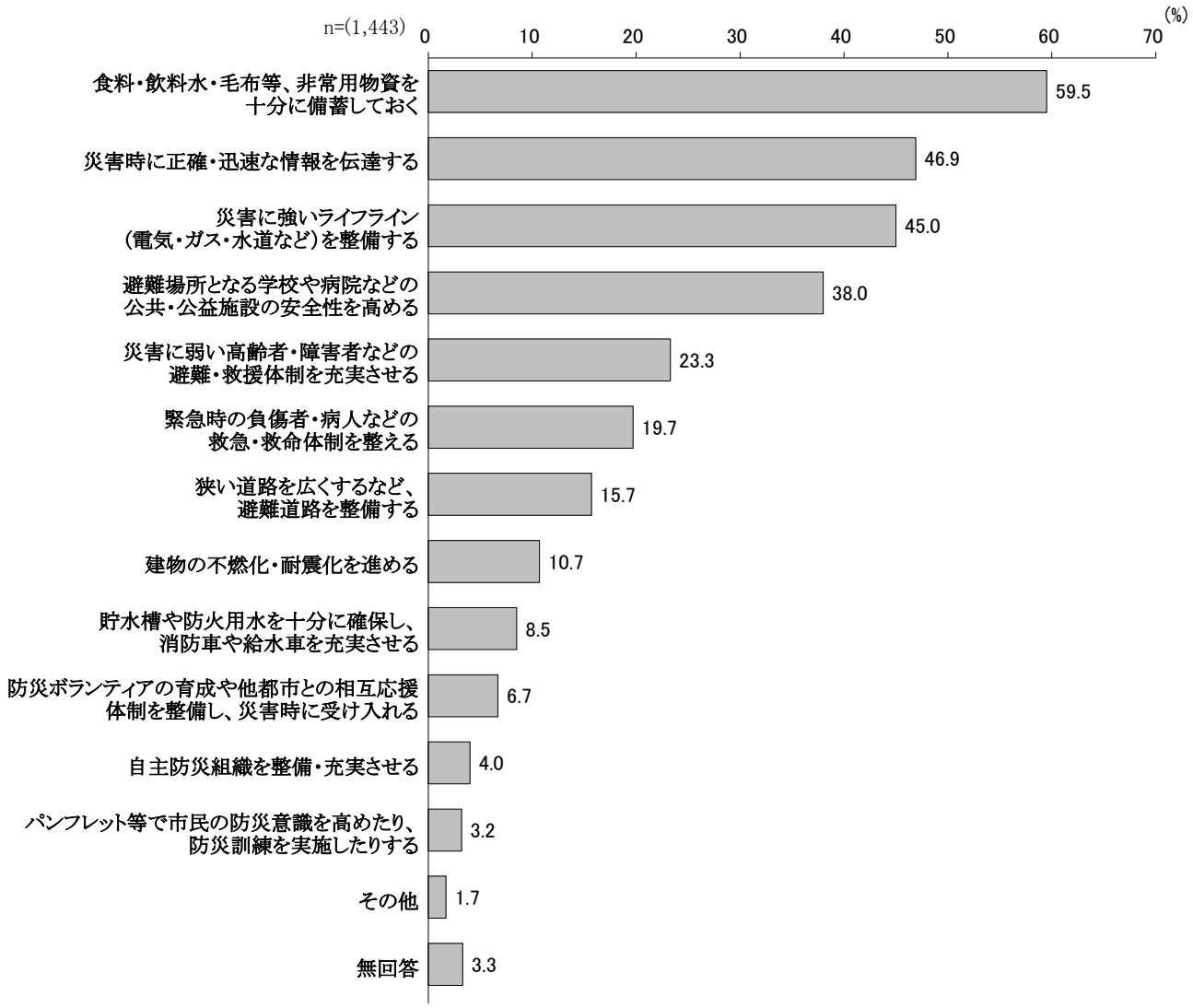


「まちづくり全体」では「満足している」(7.7%) と「まあ満足している」(60.2%) を合わせた『満足している』(67.9%) は７割近くとなっている。一方、「やや不満である」(22.7%) と「不満である」(3.0%) を合わせた『不満である』(25.7%) は２割半ばとなっている。

また、『満足している』と回答した割合が高い項目は、「緑や水辺の豊かさ」(86.9%)、「上下水道・公園整備」(81.7%)、「ごみ処理」(80.9%) となっている。一方、『不満である』と回答した割合が高い項目は、「騒音、振動」(51.8%)、「バス交通の便」(41.3%)、「レジャー・観光の環境」(38.5%) となっている。

３．災害対策

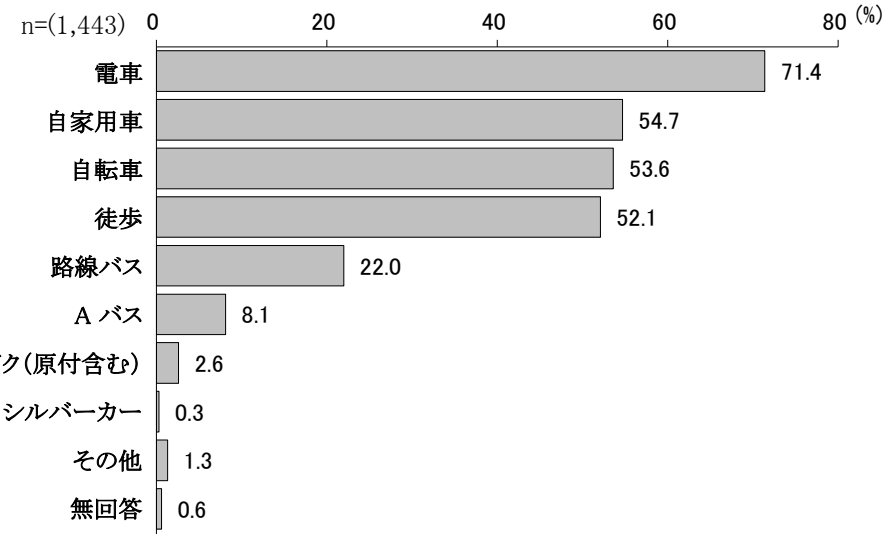
（１）市が力を入れるべき災害対策



「食料・飲料水・毛布等、非常用物資を十分に備蓄しておく」（59.5%）が約６割で最も高かった。以下、「災害時に正確・迅速な情報を伝達する」（46.9%）、「災害に強いライフライン（電気・ガス・水道など）を整備する」（45.0%）、「避難場所となる学校や病院などの公共・公益施設の安全性を高める」（38.0%）の順になっている。

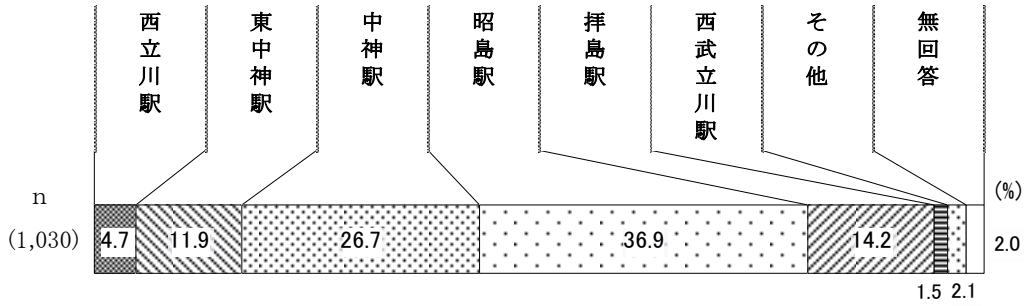
４．交通環境

（１）日常の移動手段



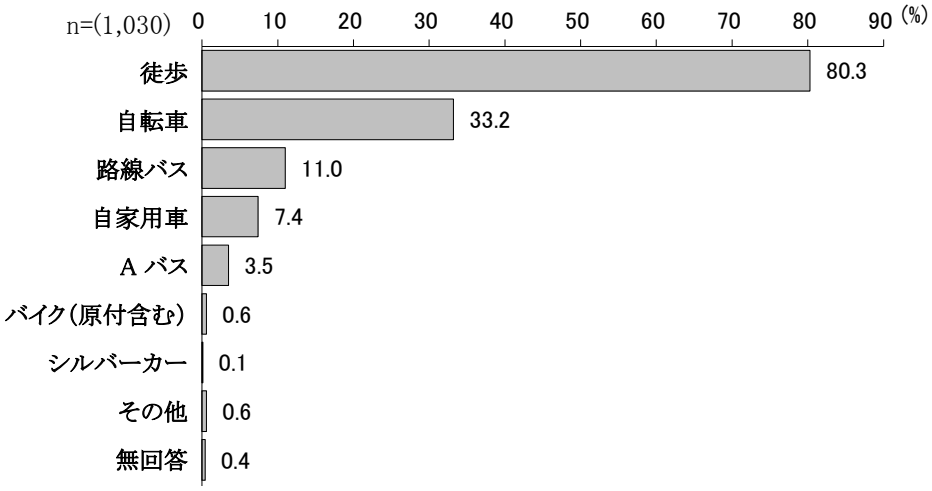
「電車」（71.4%）が７割以上で最も高かった。以下、「自家用車」（54.7%）、「自転車」（53.6%）、「徒歩」（52.1%）の順になっている。

（２）最寄り駅



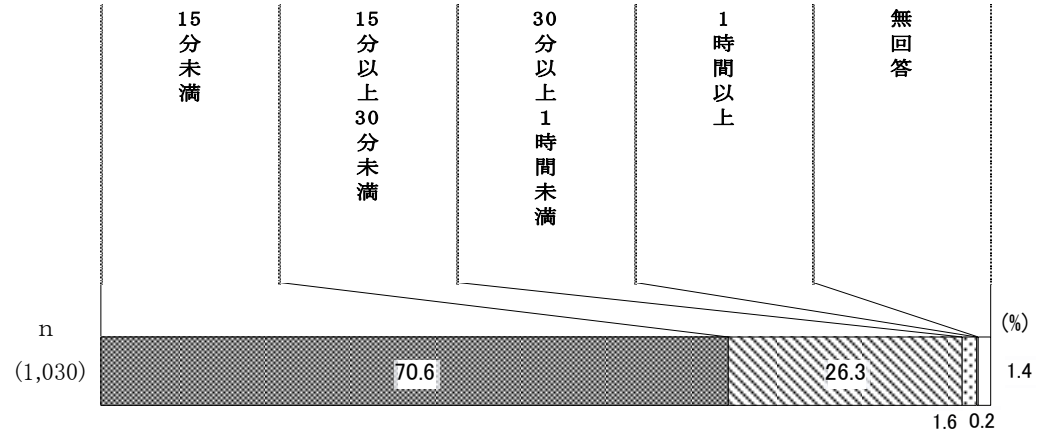
「昭島駅」（36.9%）が４割近くで最も高かった。以下、「中神駅」（26.7%）、「拝島駅」（14.2%）、「東中神駅」（11.9%）の順になっている。

（３）最寄り駅までの移動手段



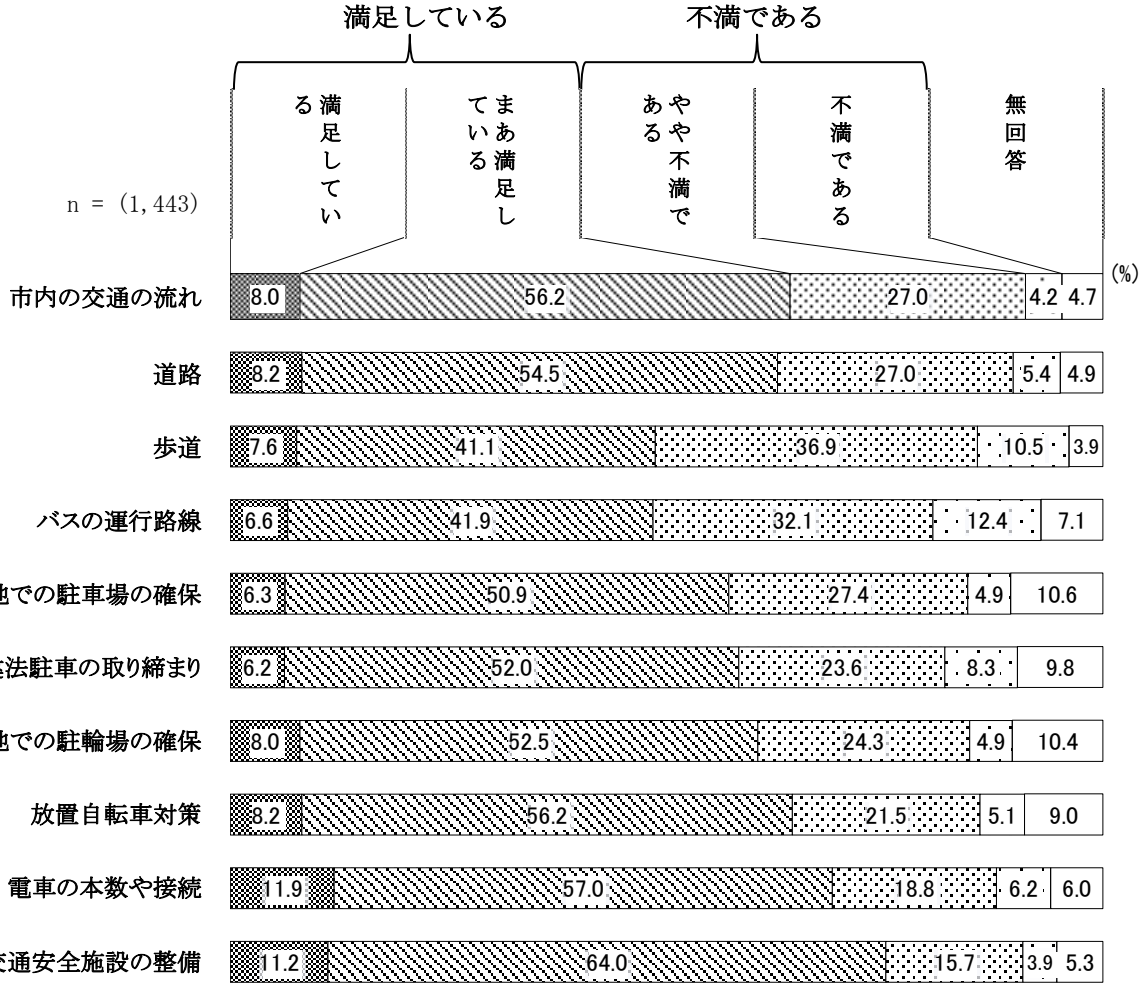
「徒歩」（80.3%）が約８割で突出して高かった。以下、「自転車」（33.2%）、「路線バス」（11.0%）の順になっている。

（４）最寄り駅までの移動時間



「15分未満」（70.6%）が約７割で最も高かった。次いで、「15分以上30分未満」（26.3%）が高くなっている。

（５）交通環境の満足度

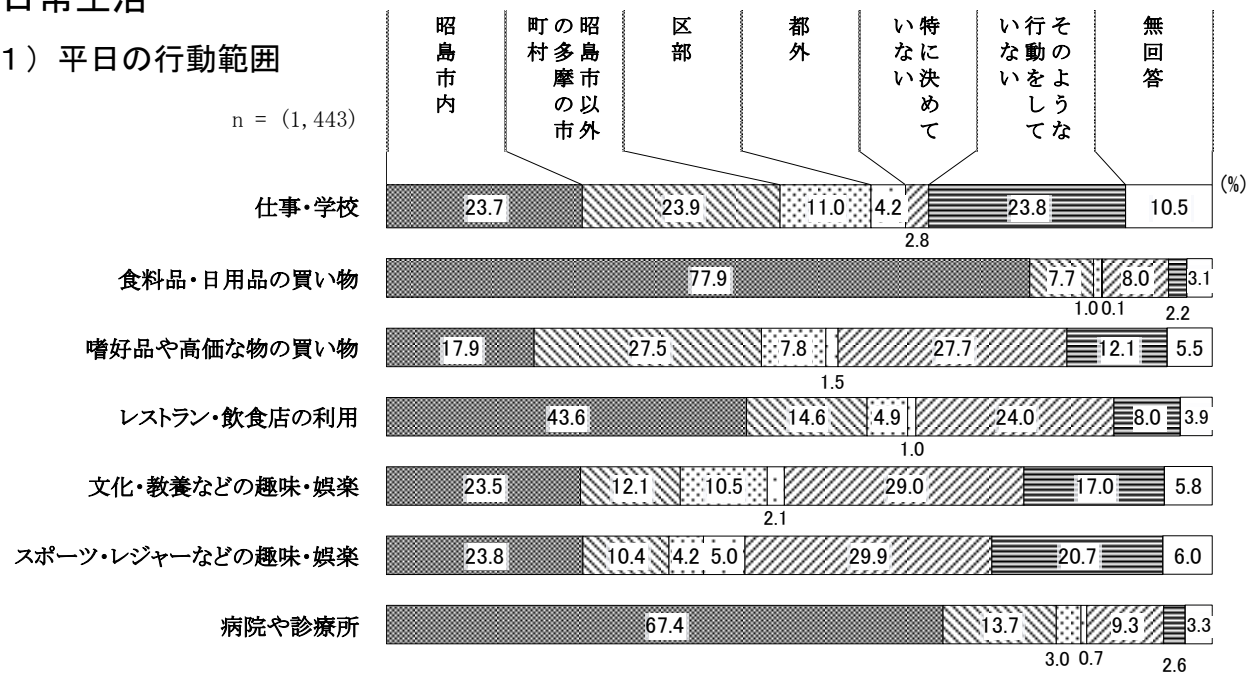


「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』と回答した割合が高い項目は、「交通安全施設の整備」（75.2%）、「電車の本数や接続」（68.9%）となっている。

一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満である』と回答した割合が高い項目は、「歩道」（47.4%）、「バスの運行路線」（44.5%）となっている。

５．日常生活

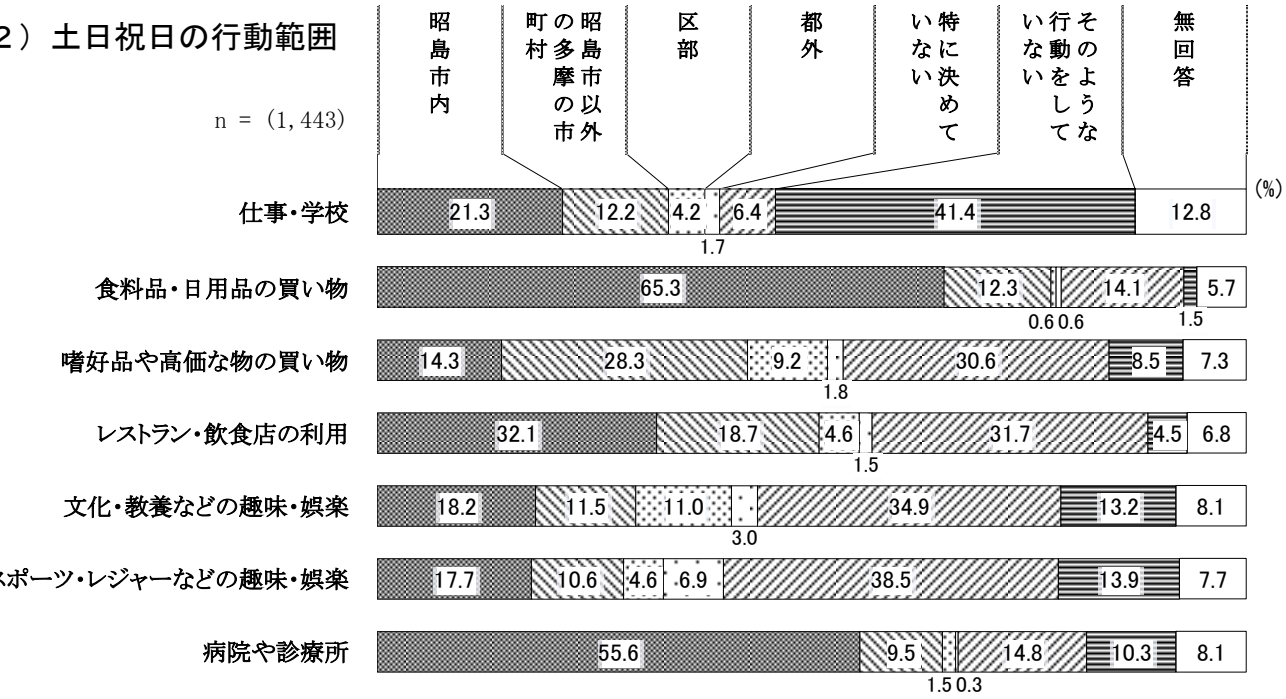
（１）平日の行動範囲



「昭島市内」と回答した割合が高い項目は、「食料品・日用品の買い物」（77.9%）、「病院や診療所」（67.4%）となっている。また、「昭島市以外の多摩の市町村」と回答した割合が高い項目は、「嗜好品や高価な物の買い物」（27.5%）、「仕事・学校」（23.9%）となっている。

一方、「特に決めていない」と回答した割合が高い項目としては、「スポーツ・レジャーなどの趣味・娯楽」（29.9%）、「文化・教養などの趣味・娯楽」（29.0%）となっている。

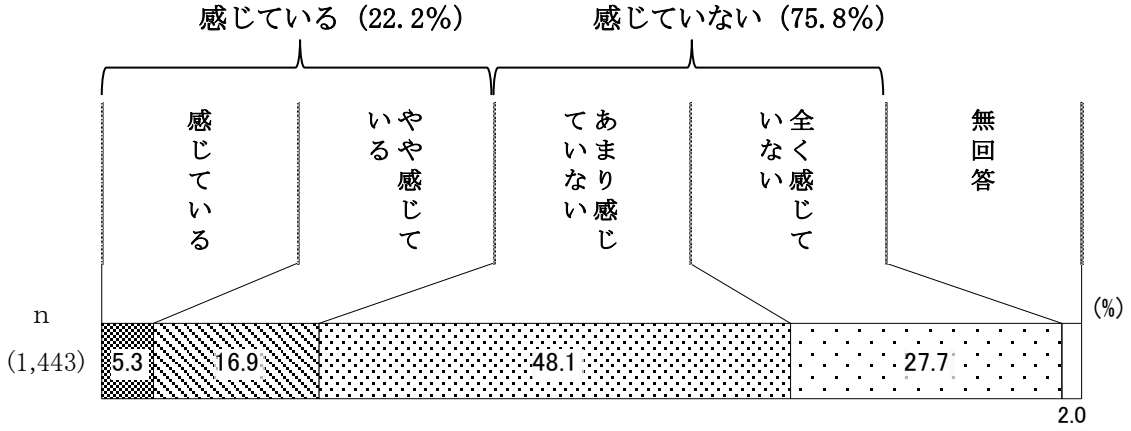
（２）土日祝日の行動範囲



「昭島市内」と回答した割合が高い項目は、「食料品・日用品の買い物」（65.3%）、「病院や診療所」（55.6%）となっている。また、「昭島市以外の多摩の市町村」と回答した割合が高い項目としては、「嗜好品や高価な物の買い物」（28.3%）となっている。

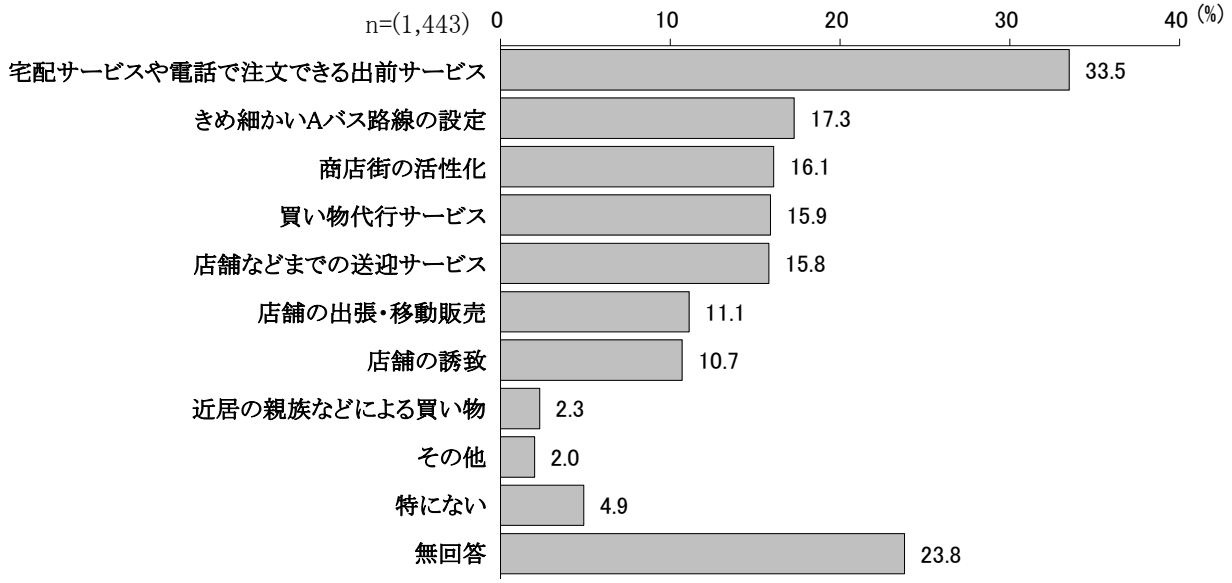
一方、「特に決めていない」と回答した割合が高い項目は、「スポーツ・レジャーなどの趣味・娯楽」（38.5%）、「文化・教養などの趣味・娯楽」（34.9%）となっている。

（３）買い物の困難さ



「感じている」（5.3%）と「やや感じている」（16.9%）を合わせた『感じている』（22.2%）が２割以上となっている。一方、「あまり感じていない」（48.1%）と「全く感じていない」（27.7%）を合わせた『感じていない』（75.8%）が７割半ばとなっている。

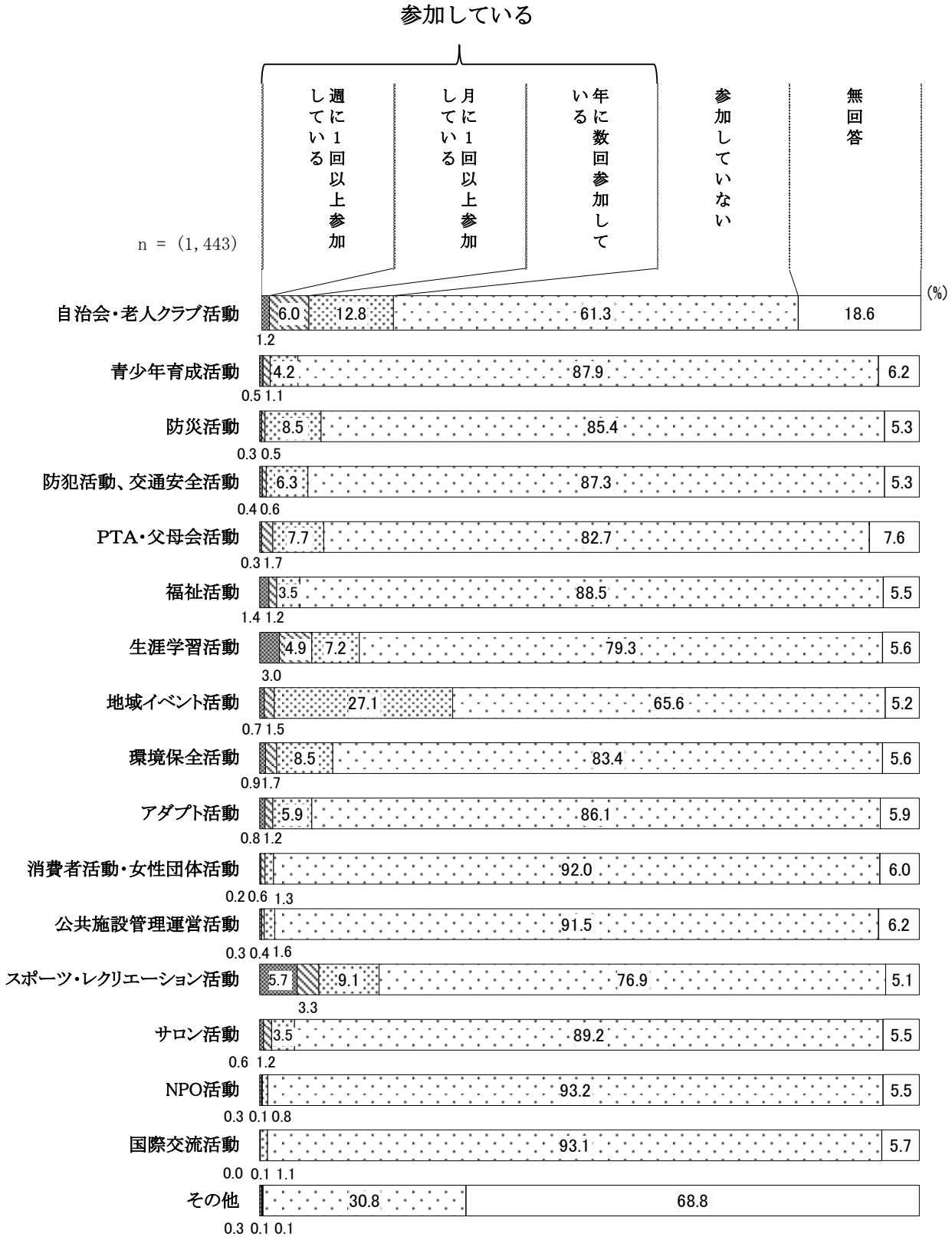
（４）買い物の困難な方に必要な対策



「宅配サービスや電話で注文できる出前サービス」（33.5%）が３割以上で最も高かった。以下、「きめ細かいＡバス路線の設定」（17.3%）、「商店街の活性化」（16.1%）、「買い物代行サービス」（15.9%）、「店舗などまでの送迎サービス」（15.8%）の順になっている。

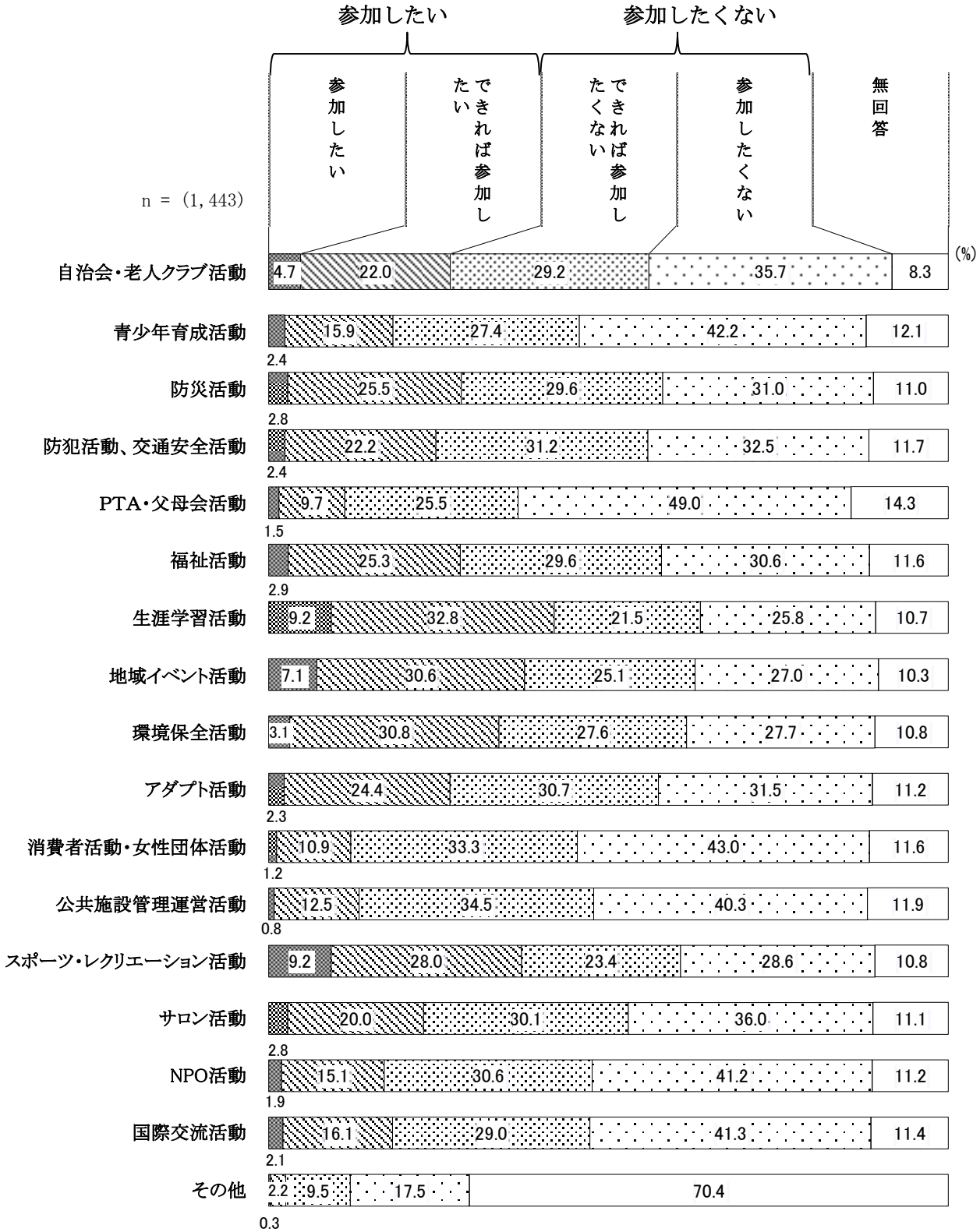
６．地域活動

（１）最近一年間の参加状況



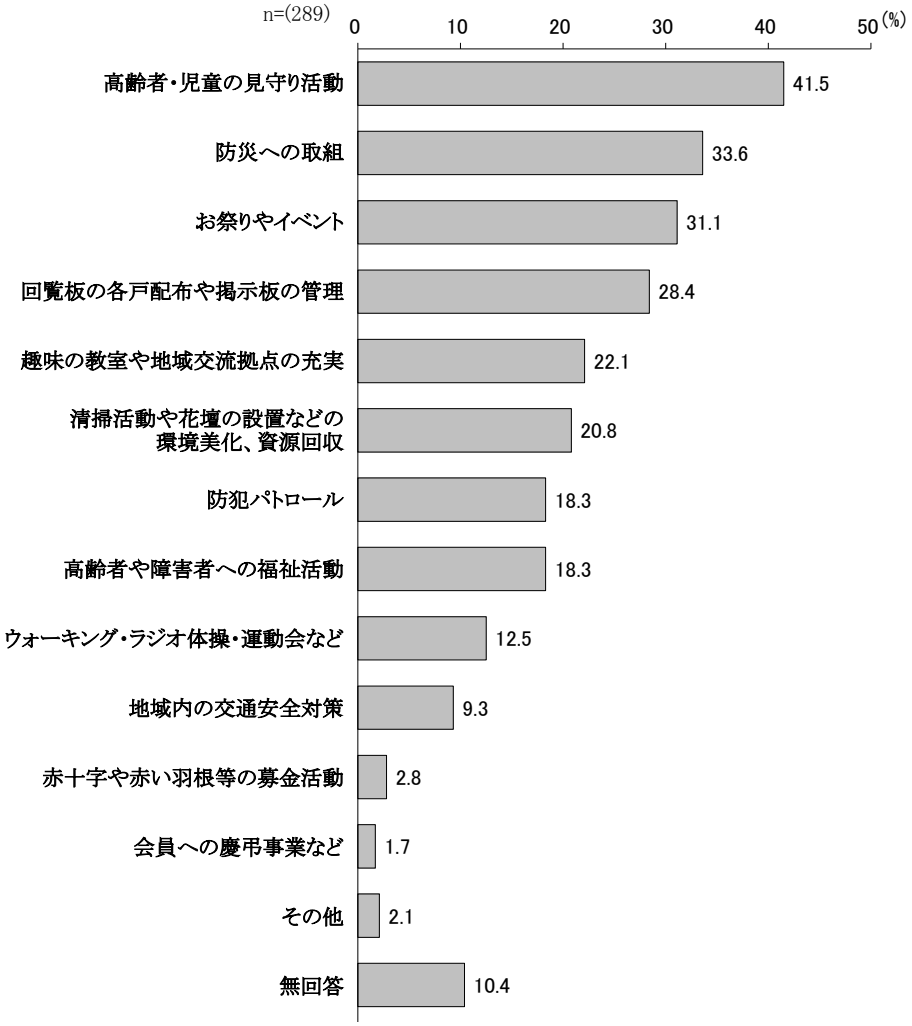
「週に１回以上参加している」と「月に１回以上参加している」と「年に数回参加している」を合わせた『参加している』と回答した割合が高い項目は、「地域イベント活動」（29.3%）、「自治会・老人クラブ活動」（20.0%）、「スポーツ・レクリエーション活動」（18.1%）となっている。

（２）今後の参加意向



「参加したい」と「できれば参加したい」を合わせた『参加したい』と回答した割合が高い項目は、「生涯学習活動」（42.0％）、「地域イベント活動」（37.7％）、「スポーツ・レクリエーション活動」（37.2％）となっている。

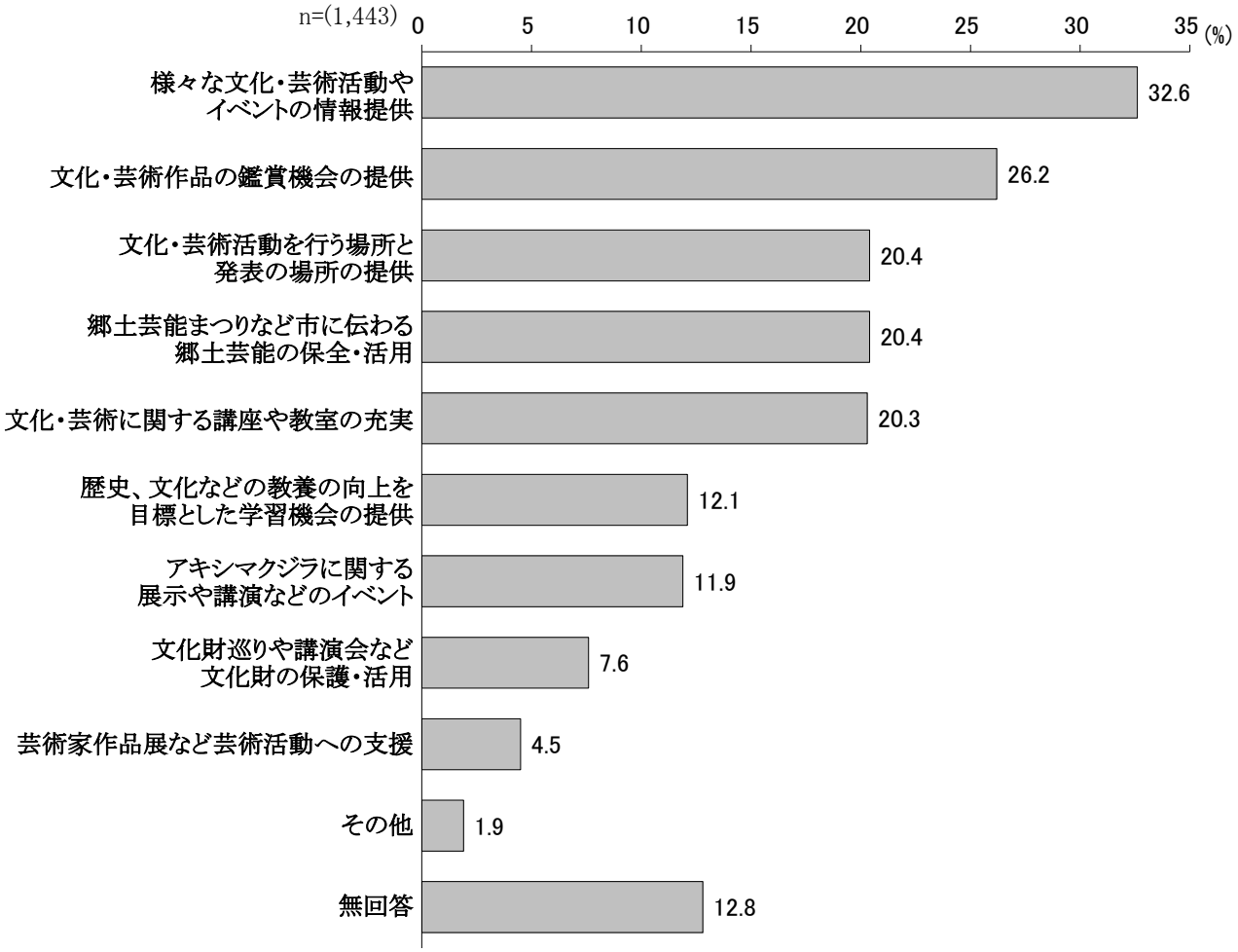
（３）重点を置いて維持すべき地域活動



（１）で自治会・老人クラブ活動に『参加している』と回答した289人に、重点を置いて維持すべき地域活動について聞いたところ、「高齢者・児童の見守り活動」（41.5％）が４割以上で最も高かった。以下、「防災への取組」（33.6％）、「お祭りやイベント」（31.1％）、「回覧板の各戸配布や掲示板の管理」（28.4％）の順になっている。

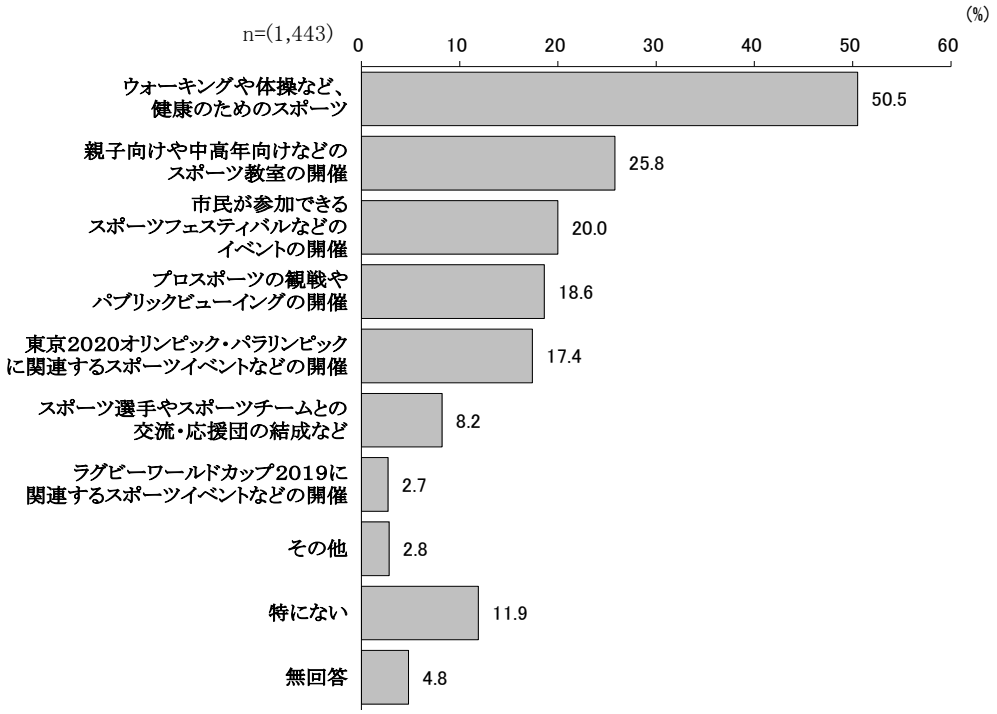
７．生涯学習

（１）市が力を入れるべき文化・芸術施策



「様々な文化・芸術活動やイベントの情報提供」（32.6％）が３割以上で最も高かった。以下、「文化・芸術作品の鑑賞機会の提供」（26.2％）、「文化・芸術活動を行う場所と発表の場所の提供」、「郷土芸能まつりなど市に伝わる郷土芸能の保全・活用」（ともに20.4％）、「文化・芸術に関する講座や教室の充実」（20.3％）の順になっている。

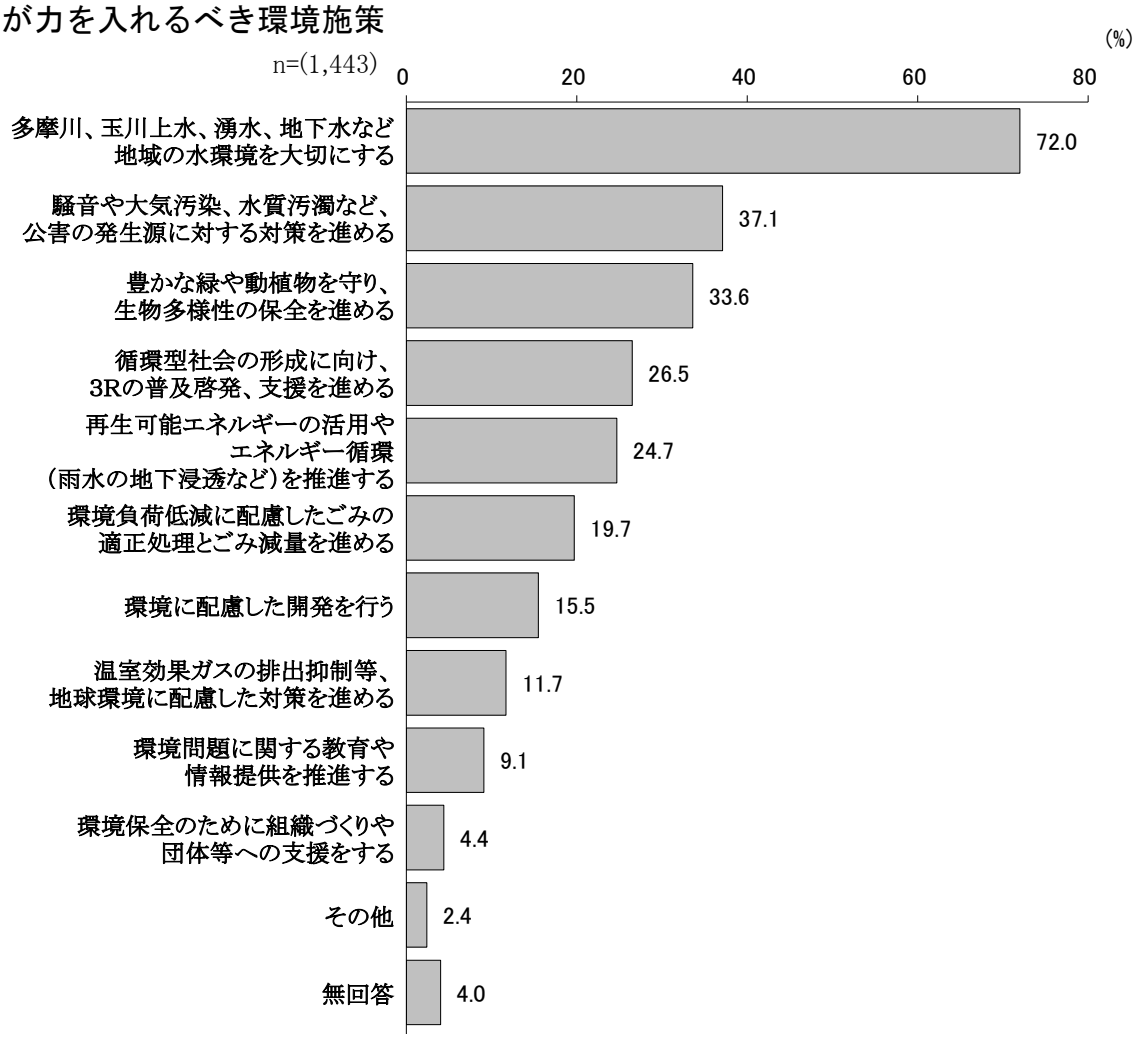
（２）生涯スポーツ社会の実現に向けて関心があること



「ウォーキングや体操など、健康のためのスポーツ」（50.5%）が約５割で最も高かった。以下、「親子向けや中高年向けなどのスポーツ教室の開催」（25.8%）、「市民が参加できるスポーツフェスティバルなどのイベントの開催」（20.0%）の順になっている。

８．環境

（１）市が力を入れるべき環境施策

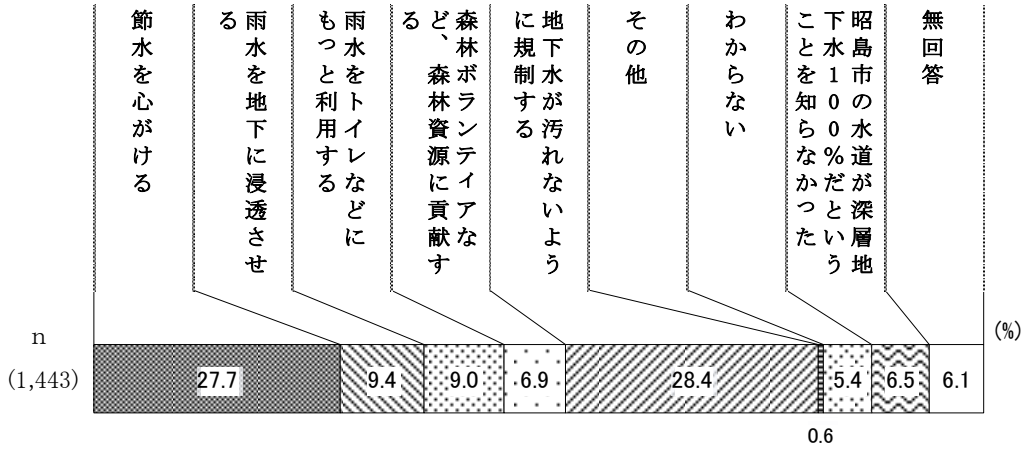


※３Ｒ：発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）

「多摩川、玉川上水、湧水、地下水など地域の水環境を大切にする」（72.0%）が７割以上で最も高かった。以下、「騒音や大気汚染、水質汚濁など、公害の発生源に対する対策を進める」（37.1%）、「豊かな緑や動植物を守り、生物多様性の保全を進める」（33.6%）の順になっている。

９．昭島市の水道水

（１）おいしい水の供給を維持するために必要なこと

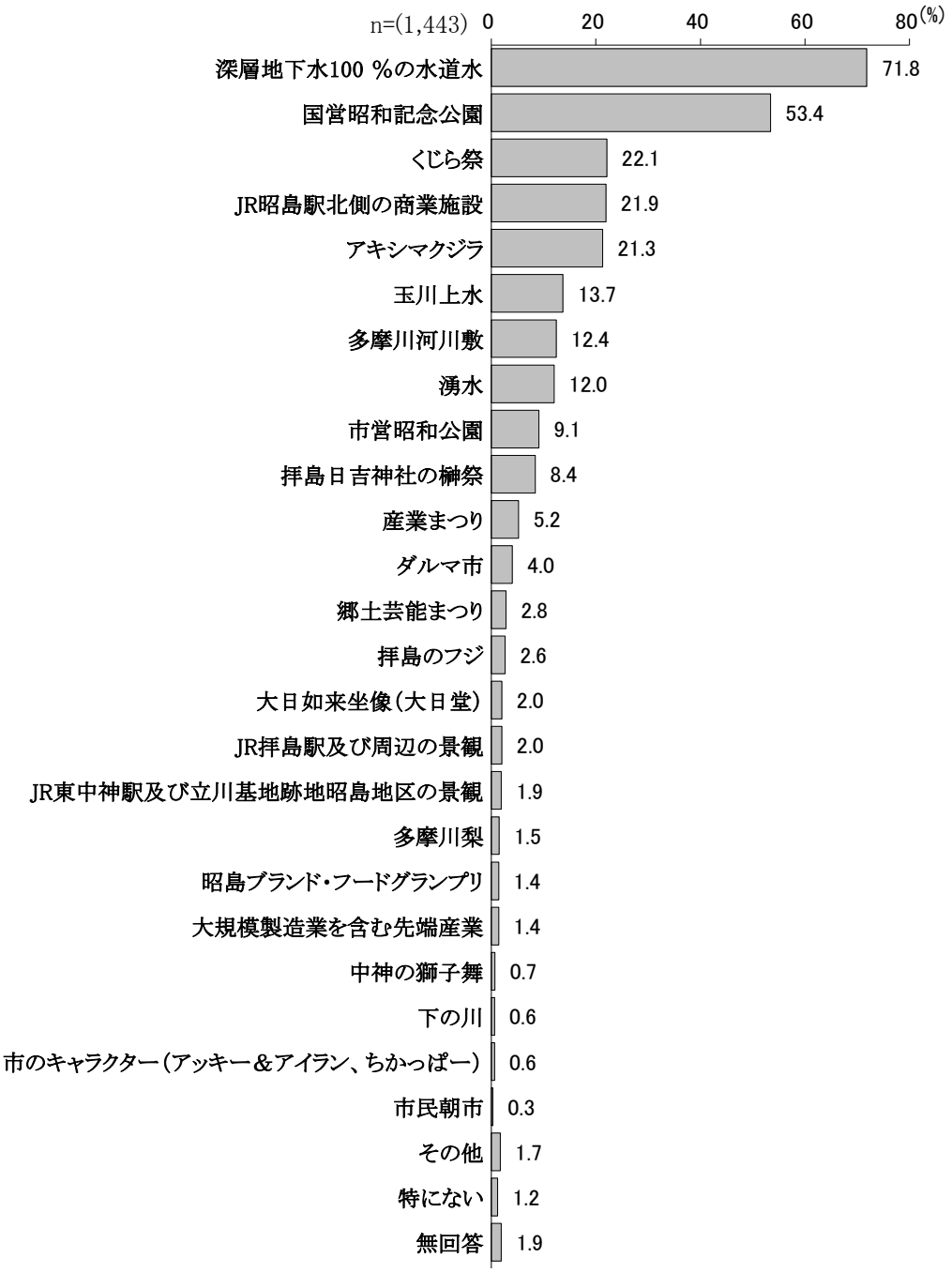


「地下水が汚れないように規制する」（28.4％）が３割近くで最も高かった。以下、「節水を心がける」（27.7％）、「雨水を地下に浸透させる」（9.4％）、「雨水をトイレなどにもっと利用する」（9.0％）の順になっている。

一方、「昭島市の水道が深層地下水100％だということを知らなかった」（6.5％）は１割未満となっている。

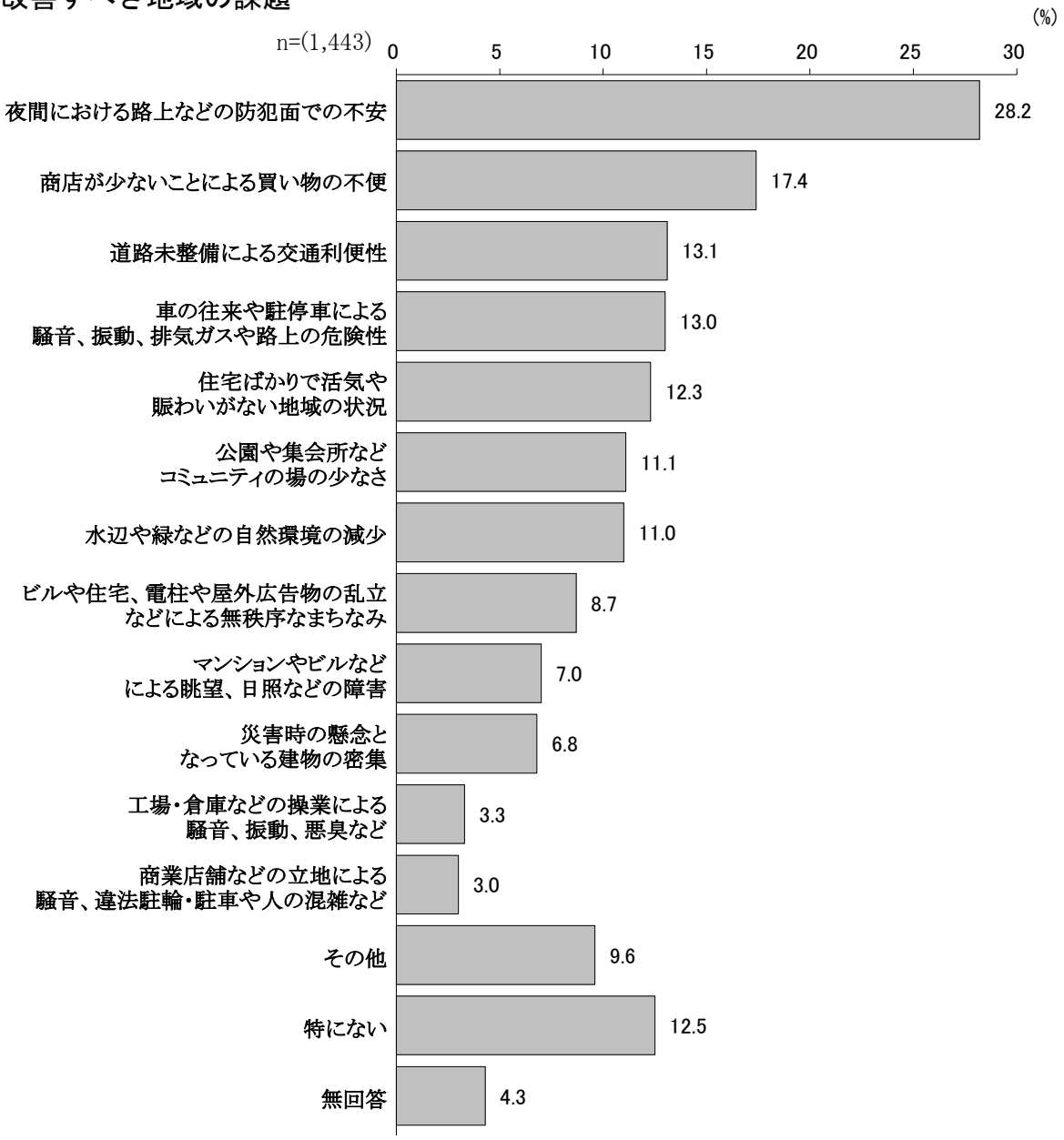
１０．昭島市のまちづくり

（１）昭島市の魅力・誇り



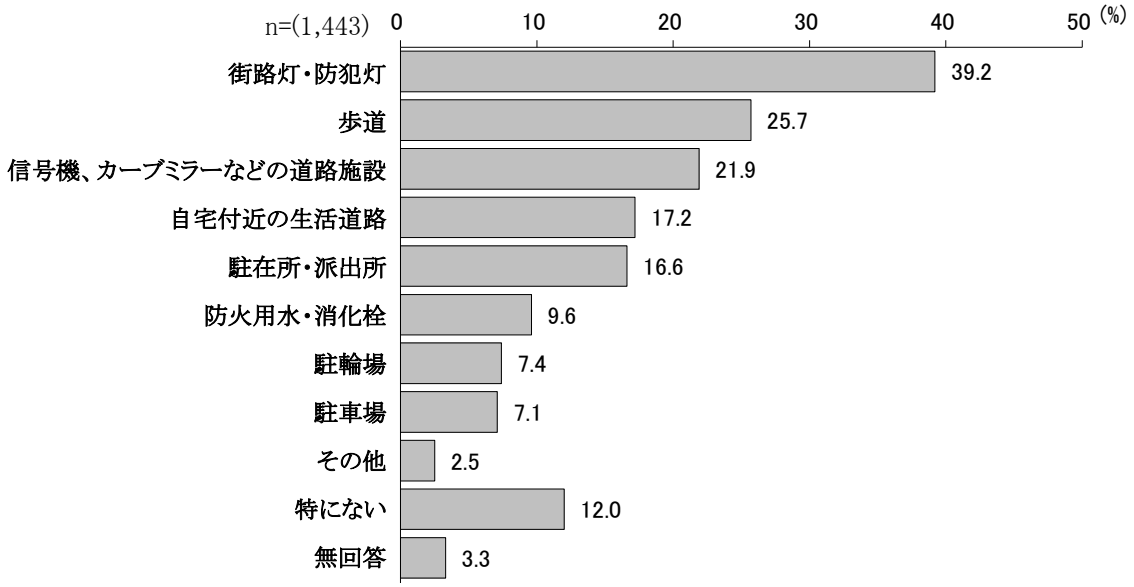
「深層地下水100％の水道水」（71.8％）が７割以上で最も高かった。以下、「国営昭和記念公園」（53.4％）、「くじら祭」（22.1％）、「JR昭島駅北側の商業施設」（21.9％）、「アキシマクジラ」（21.3％）の順になっている。

（２）改善すべき地域の課題



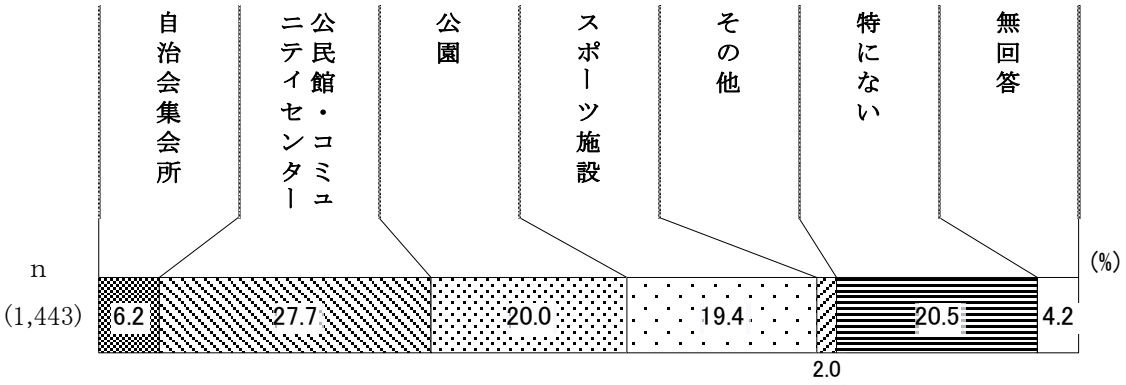
「夜間における路上などの防犯面での不安」（28.2%）が３割近くで最も高かった。以下、「商店が少ないことによる買い物の不便」（17.4%）、「道路未整備による交通利便性」（13.1%）、「車の往来や駐停車による騒音、振動、排気ガスや路上の危険性」（13.0%）の順になっている。

（３）必要な施設、維持すべき施設（交通安全・防災防犯）



「街路灯・防犯灯」（39.2%）が４割近くで最も高かった。以下、「歩道」（25.7%）、「信号機、カーブミラーなどの道路施設」（21.9%）、「自宅付近の生活道路」（17.2%）、「駐在所・派出所」（16.6%）の順になっている。

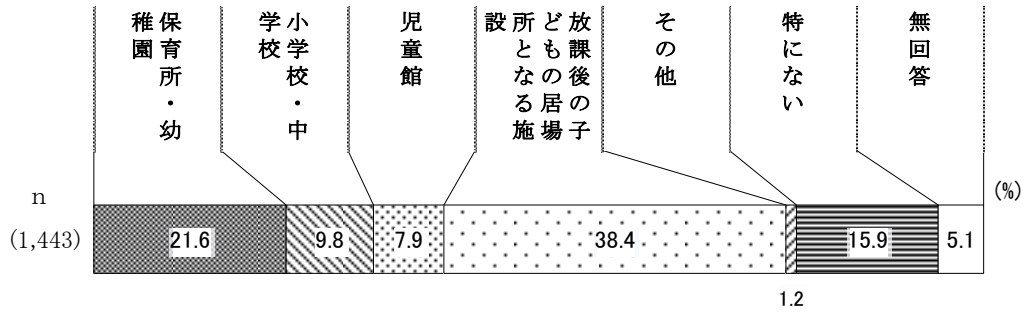
（４）必要な施設、維持すべき施設（市民交流）



「公民館・コミュニティセンター」（27.7%）が３割近くで最も高かった。以下、「公園」（20.0%）、「スポーツ施設」（19.4%）の順になっている。

一方、「特にない」（20.5%）は約２割となっている。

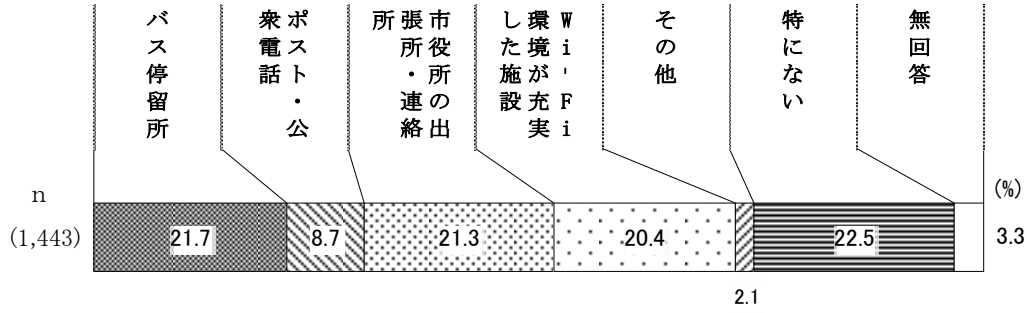
（５）必要な施設、維持すべき施設（子ども）



「放課後の子どもの居場所となる施設」（38.4%）が４割近くで最も高かった。以下、「保育所・幼稚園」（21.6%）、「小学校・中学校」（9.8%）の順になっている。

一方、「特にない」（15.9%）は１割半ばとなっている。

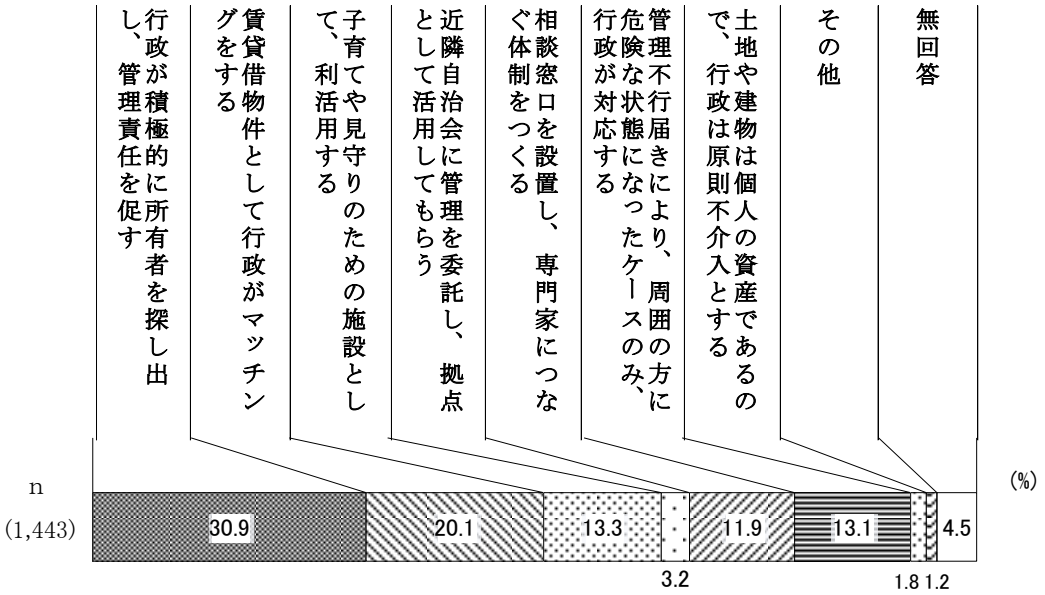
（６）必要な施設、維持すべき施設（生活利便）



「特にない」（22.5%）が２割以上で最も高かった。

具体的に挙げられたものの中では、「バス停留所」（21.7%）、「市役所の出張所・連絡所」（21.3%）、「Wi-Fi環境が充実した施設」（20.4%）の順になっている。

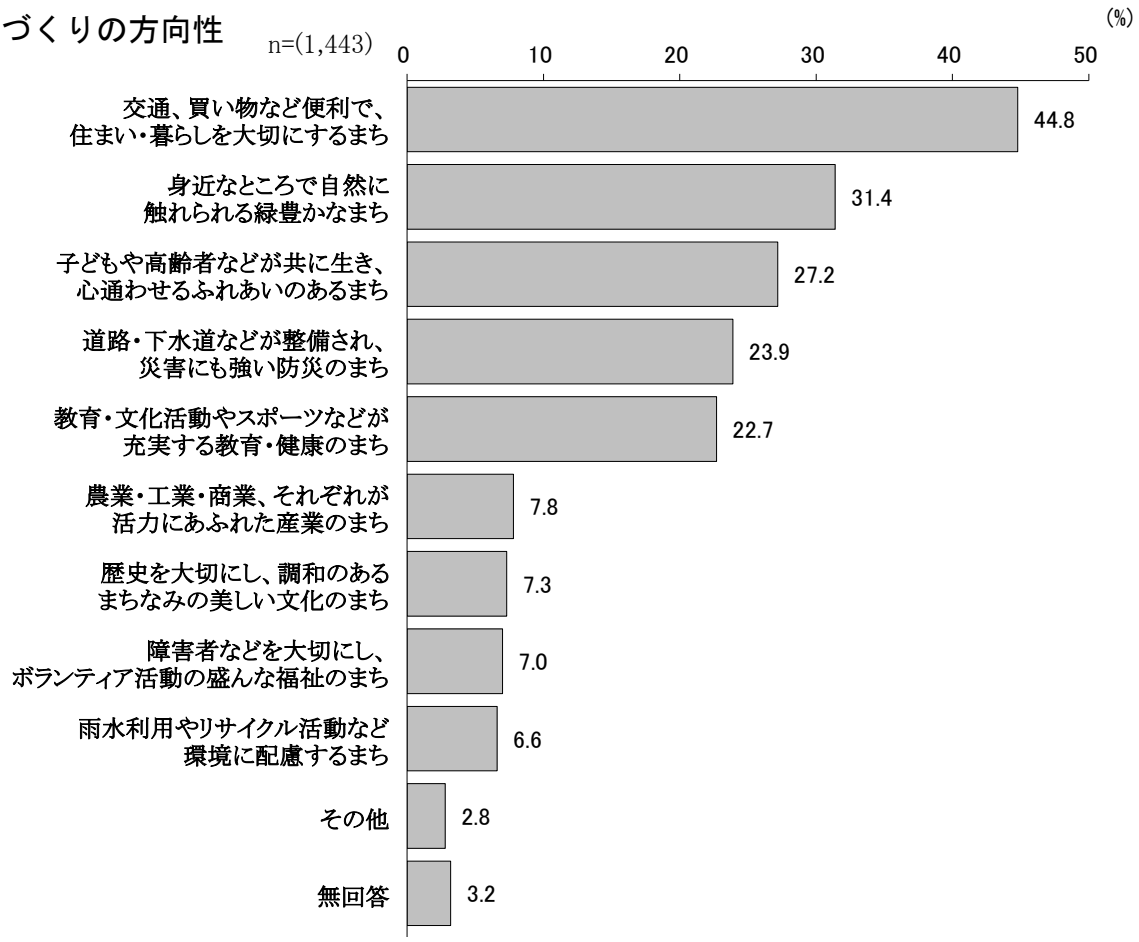
（７）空き家対策への考え



「行政が積極的に所有者を探し出し、管理責任を促す」（30.9％）が約３割で最も高かった。以下、「賃貸借物件として行政がマッチングをする」（20.1％）、「子育てや見守りのための施設として、利活用する」（13.3％）、「管理不行届きにより、周囲の方に危険な状態になったケースのみ、行政が対応する」（13.1％）の順になっている。

１１．昭島市の将来都市像

（１）まちづくりの方向性



「交通、買い物など便利で、住まい・暮らしを大切にするまち」（44.8%）が４割半ばで最も高かった。以下、「身近なところで自然に触れられる緑豊かなまち」（31.4%）、「子どもや高齢者などが共に生き、心通わせるふれあいのあるまち」（27.2%）、「道路・下水道などが整備され、災害にも強い防災のまち」（23.9%）、「教育・文化活動やスポーツなどが充実する教育・健康のまち」（22.7%）の順になっている。

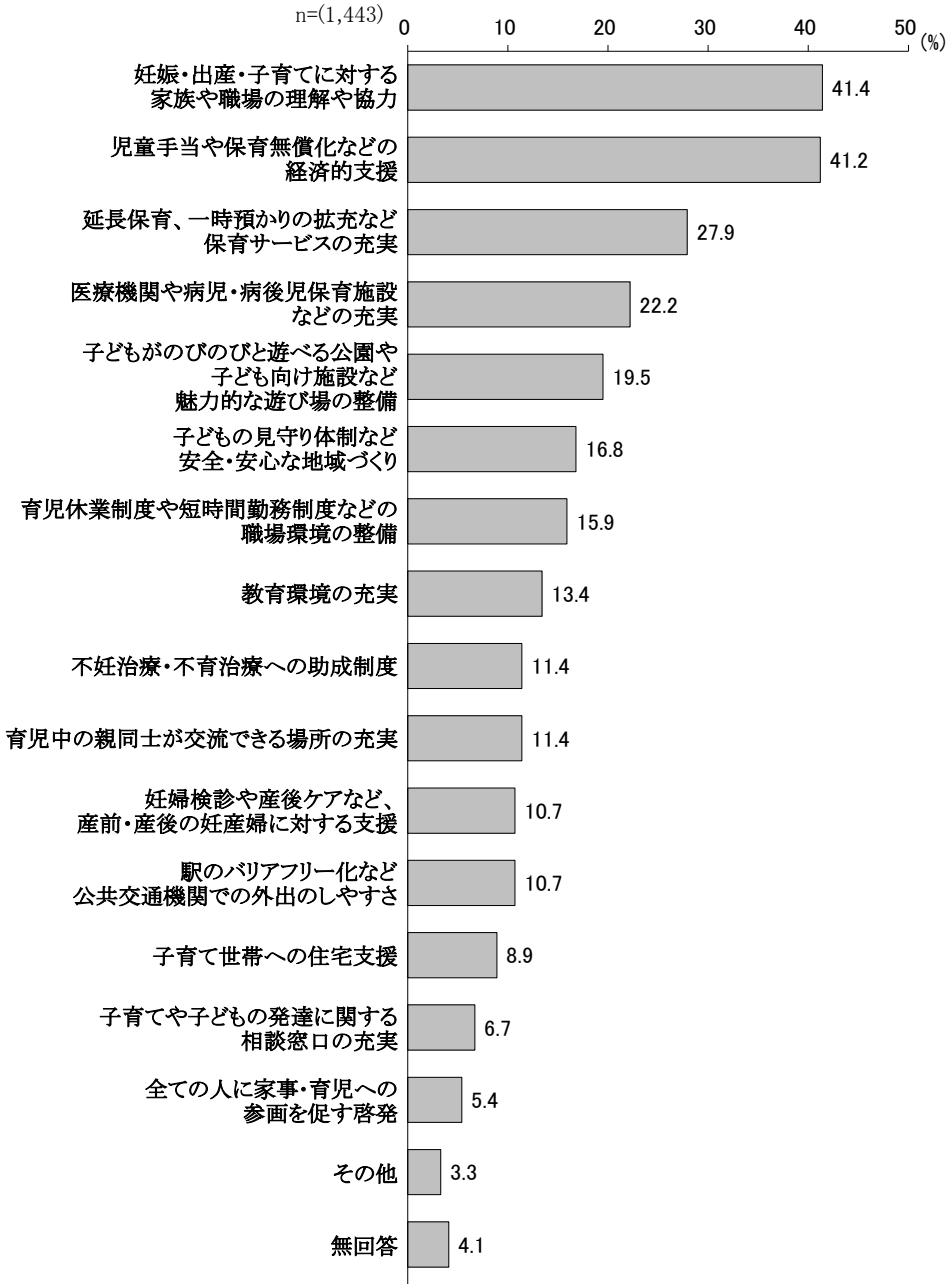
（２）まちづくりのためのキーワード

以下のような言葉を含んだキーワードが多く寄せられていた。

・水
・緑/自然
・安全/安心/防災/治安
・やさしい
・子育て/子ども
・福祉/高齢者
・暮らしやすい/住みやすい
・便利/利便性
・バリアフリー

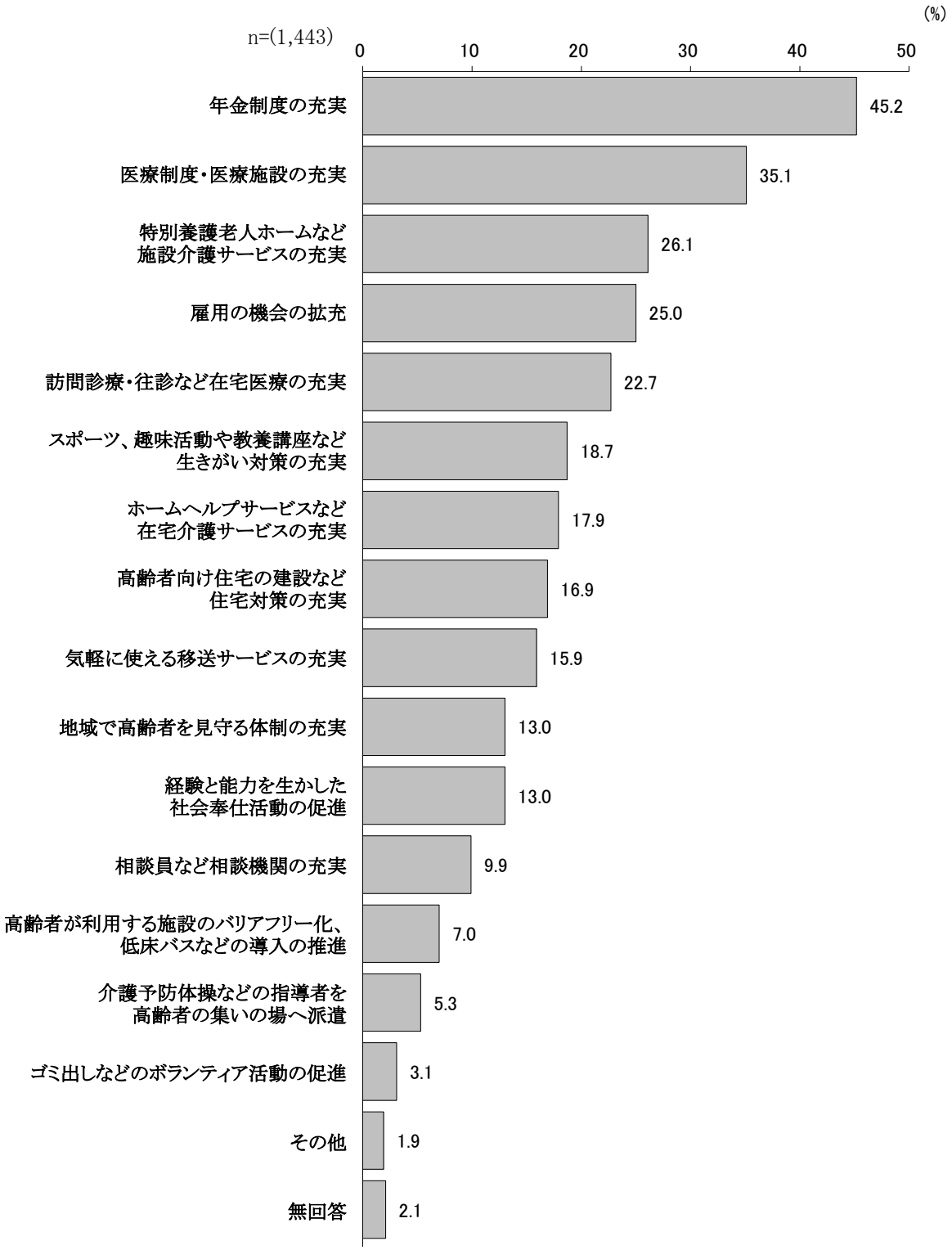
１２．少子高齢化

（１）子育てしやすい環境づくりのために重要な施策



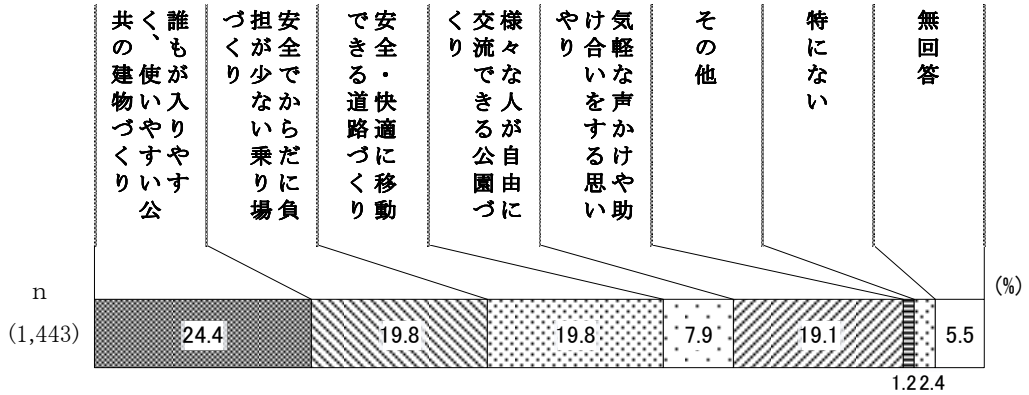
「妊娠・出産・子育てに対する家族や職場の理解や協力」（41.4%）と「児童手当や保育無償化などの経済的支援」（41.2%）が４割以上で高かった。以下、「延長保育、一時預かりの拡充など保育サービスの充実」（27.9%）、「医療機関や病児・病後児保育施設などの充実」（22.2%）、「子どもがのびのびと遊べる公園や子ども向け施設など魅力的な遊び場の整備」（19.5%）の順になっている。

（２）高齢者にとって重要な施策



「年金制度の充実」（45.2％）が４割半ばで最も高かった。以下、「医療制度・医療施設の充実」（35.1％）、「特別養護老人ホームなど施設介護サービスの充実」（26.1％）、「雇用の機会の拡充」（25.0％）、「訪問診療・往診など在宅医療の充実」（22.7％）の順になっている。

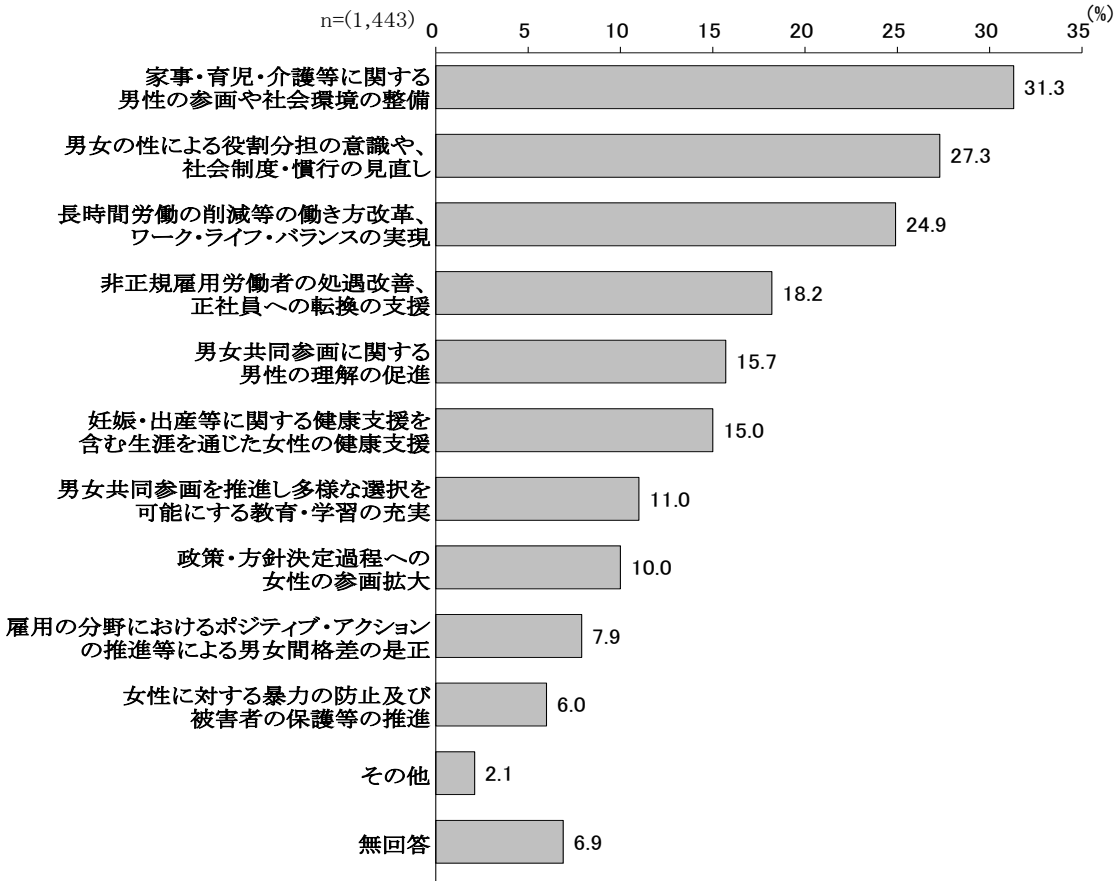
（３）高齢者や障害者が安全に外出できるよう市が力を入れるべき施策



「誰もが入りやすく、使いやすい公共の建物づくり」（24.4%）が２割半ばで最も高かった。以下、「安全でからだに負担が少ない乗り場づくり」、及び「安全・快適に移動できる道路づくり」（ともに19.8%）、「気軽な声かけや助け合いをする思いやり」（19.1%）の順になっている。

１３．男女共同参画

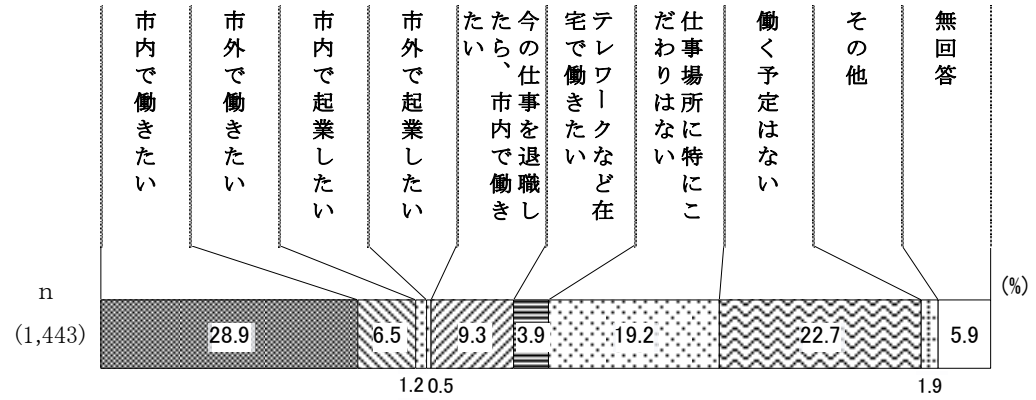
（１）女性の社会参画や地位向上に必要なこと



「家事・育児・介護等に関する男性の参画や社会環境の整備」（31.3%）が３割以上で最も高かった。以下、「男女の性による役割分担の意識や、社会制度・慣行の見直し」（27.3%）、「長時間労働の削減等の働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの実現」（24.9%）、「非正規雇用労働者の処遇改善、正社員への転換の支援」（18.2%）の順になっている。

１４．働き方

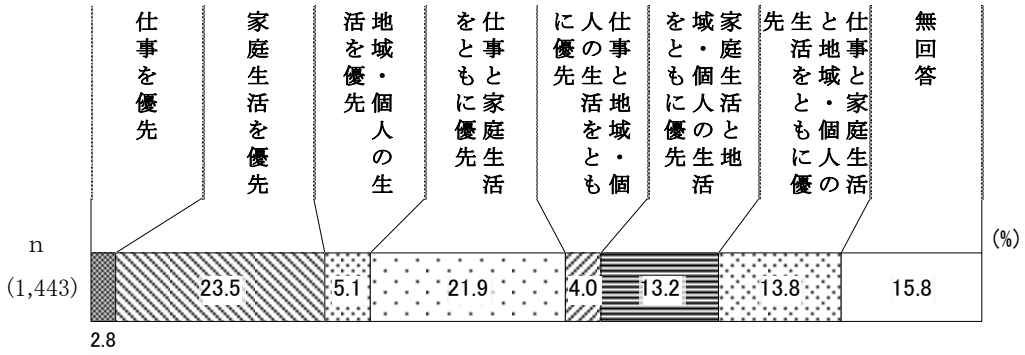
（１）希望する就労場所



「市内で働きたい」（28.9%）が３割近くで最も高かった。以下、「仕事場所に特にこだわりはない」（19.2%）、「今の仕事を退職したら、市内で働きたい」（9.3%）、「市外で働きたい」（6.5%）の順になっている。

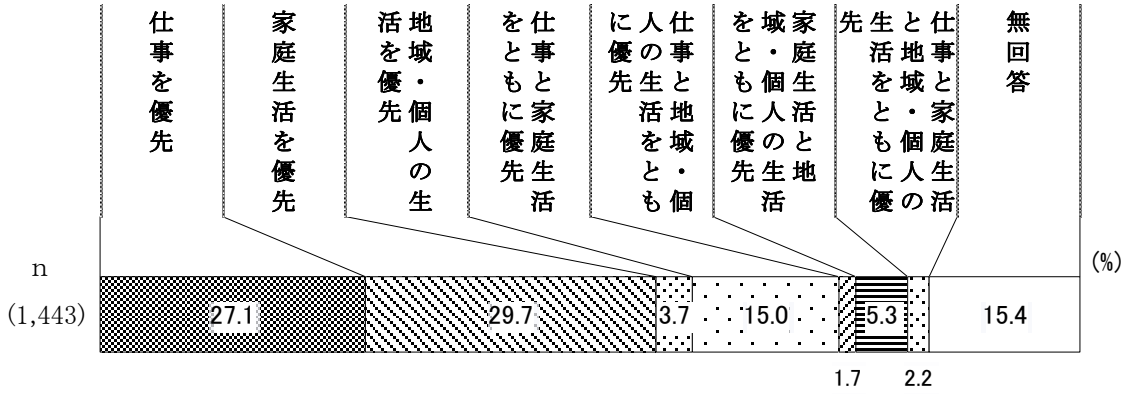
一方、「働く予定はない」（22.7%）は２割以上となっている。

（２）「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の中で優先したいもの（理想）



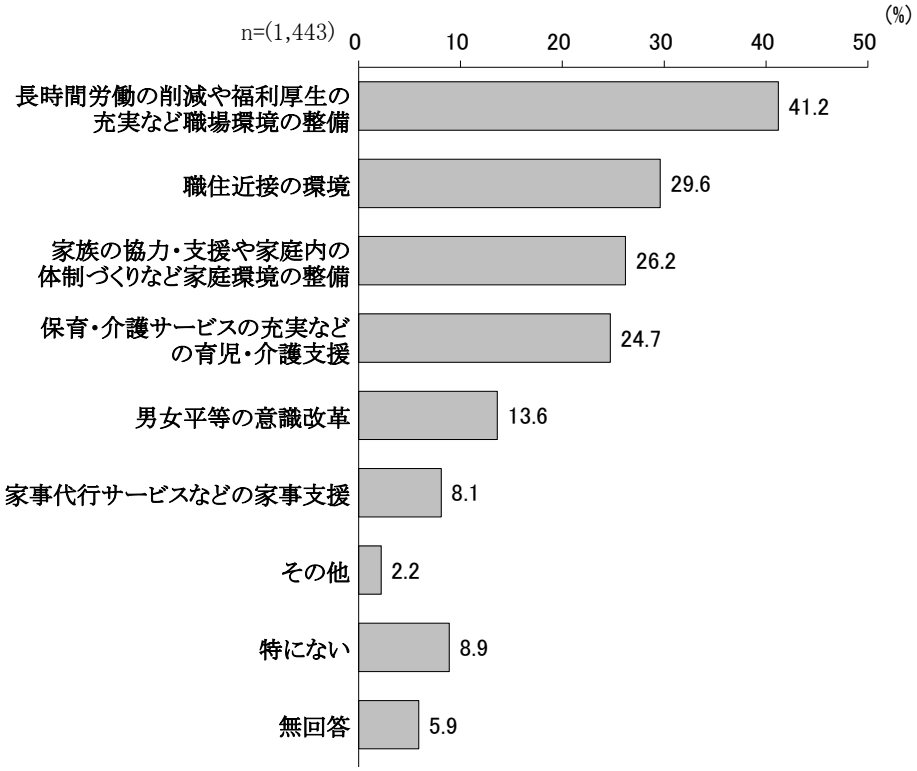
「家庭生活を優先」（23.5%）が２割以上で最も高かった。以下、「仕事と家庭生活をともに優先」（21.9%）、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（13.8%）、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（13.2%）の順になっている。

（３）「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の中で優先しているもの（現実）



「家庭生活を優先」（29.7%）が約３割で最も高かった。以下、「仕事を優先」（27.1%）、「仕事と家庭生活をともに優先」（15.0%）の順になっている。

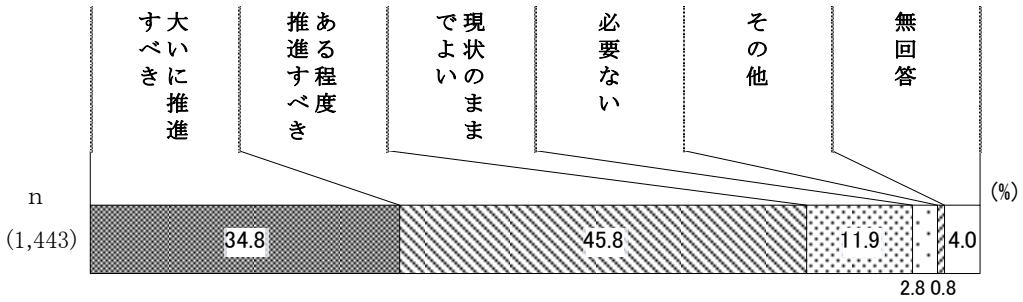
（４）「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランスをとるために必要なこと



「長時間労働の削減や福利厚生の充実など職場環境の整備」（41.2%）が４割以上で最も高かった。以下、「職住近接の環境」（29.6%）、「家族の協力・支援や家庭内の体制づくりなど家庭環境の整備」（26.2%）、「保育・介護サービスの充実などの育児・介護支援」（24.7%）の順になっている。

１５．国際交流・多文化共生

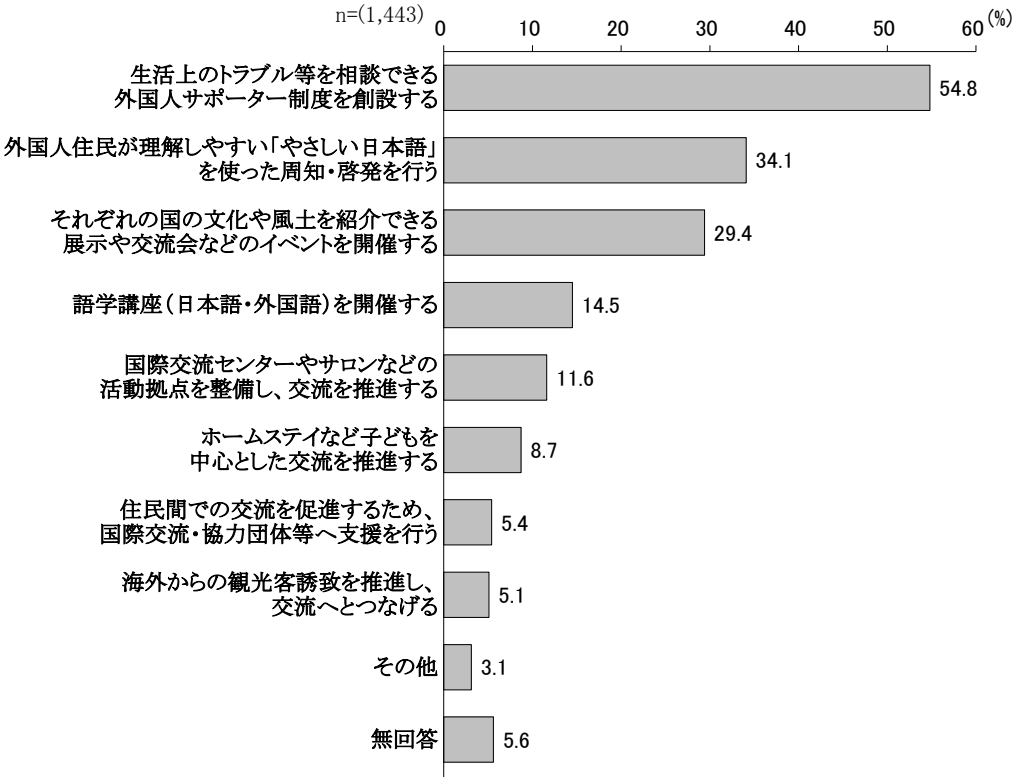
（１）在住外国人向け施策推進への考え



「ある程度推進すべき」（45.8％）が４割半ばで最も高かった。以下、「大いに推進すべき」（34.8％）、「現状のままでよい」（11.9％）の順になっている。

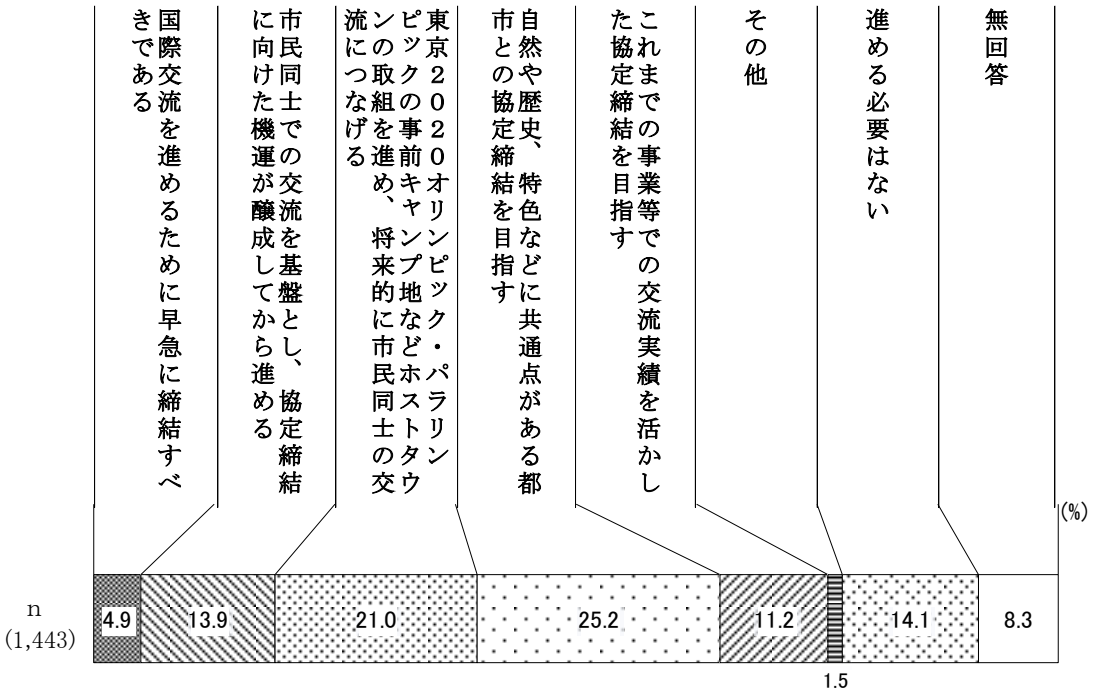
一方、「必要ない」（2.8％）は１割未満となっている。

（２）外国人との交流として望ましいもの



「生活上のトラブル等を相談できる外国人サポーター制度を創設する」（54.8％）が５割半ばで最も高かった。以下、「外国人住民が理解しやすい「やさしい日本語」を使った周知・啓発を行う」（34.1％）、「それぞれの国の文化や風土を紹介できる展示や交流会などのイベントを開催する」（29.4％）の順になっている。

（３）海外都市との交流への考え

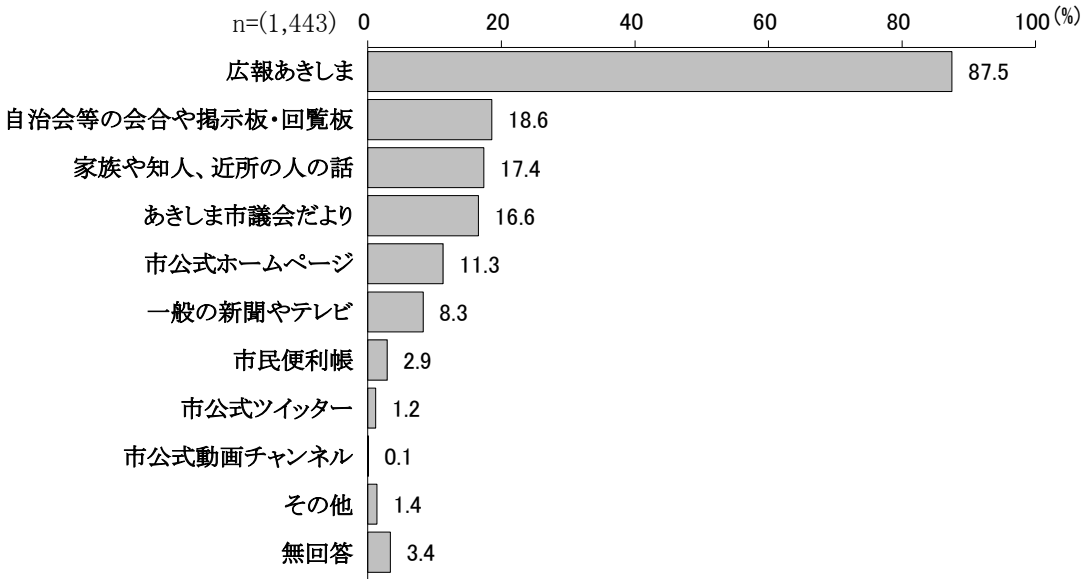


海外都市との交流を行う姉妹都市・友好都市協定の締結への考えについて聞いたところ、「自然や歴史、特色などに共通点がある都市との協定締結を目指す」（25.2%）が２割半ばで最も高かった。以下、「東京２０２０オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地などホストタウンの取組を進め、将来的に市民同士の交流につなげる」（21.0%）、「市民同士での交流を基盤とし、協定締結に向けた機運が醸成してから進める」（13.9%）、「これまでの事業等での交流実績を活かした協定締結を目指す」（11.2%）の順になっている。

一方、「進める必要はない」（14.1%）は１割半ばとなっている。

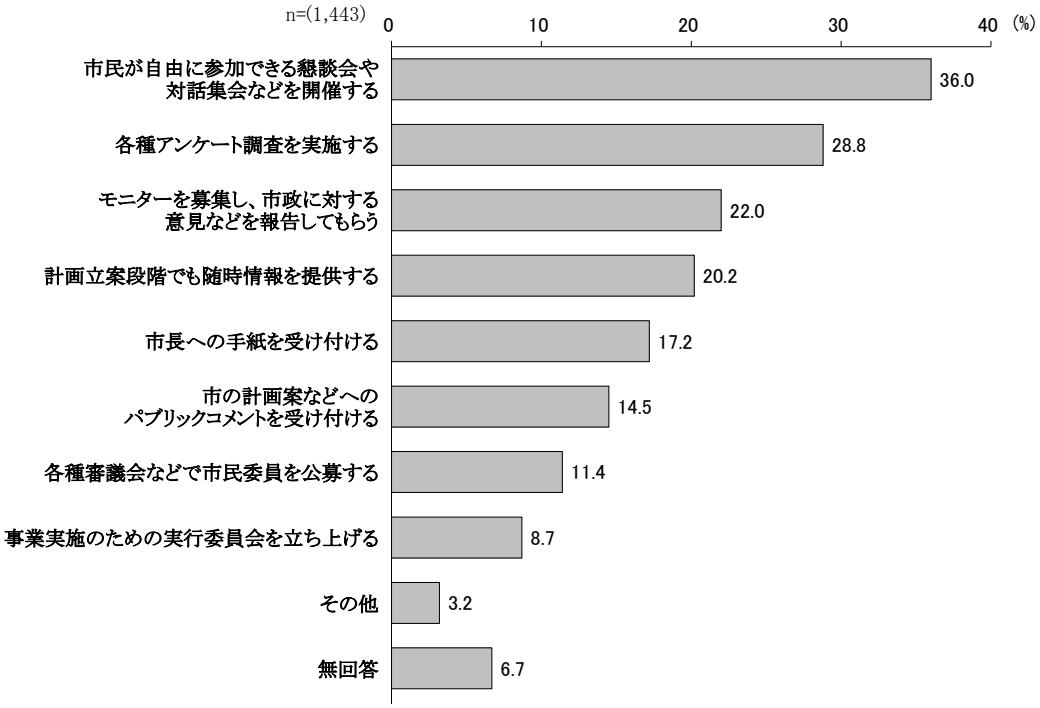
１６．市政と市民

（１）市に関わる情報の入手方法



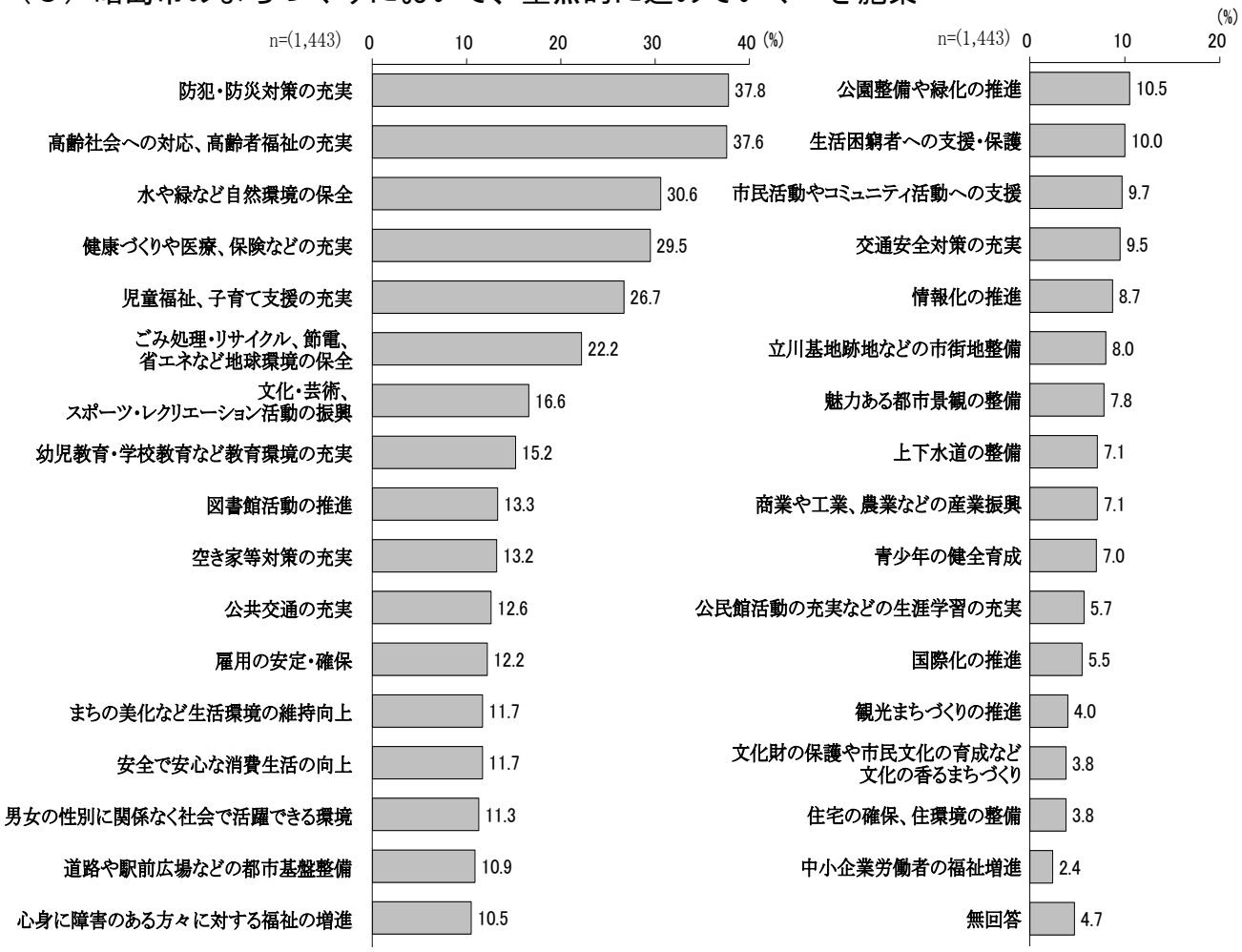
「広報あきしま」（87.5%）が９割近くで最も高かった。以下、「自治会等の会合や掲示板・回覧板」（18.6%）、「家族や知人、近所の人の話」（17.4%）、「あきしま市議会だより」（16.6%）の順になっている。

（２）市民の意見・要望を市政に反映させるために必要なこと



「市民が自由に参加できる懇談会や対話集会などを開催する」（36.0%）が３割半ばで最も高かった。以下、「各種アンケート調査を実施する」（28.8%）、「モニターを募集し、市政に対する意見などを報告してもらう」（22.0%）、「計画立案段階でも随時情報を提供する」（20.2%）、「市長への手紙を受け付ける」（17.2%）の順になっている。

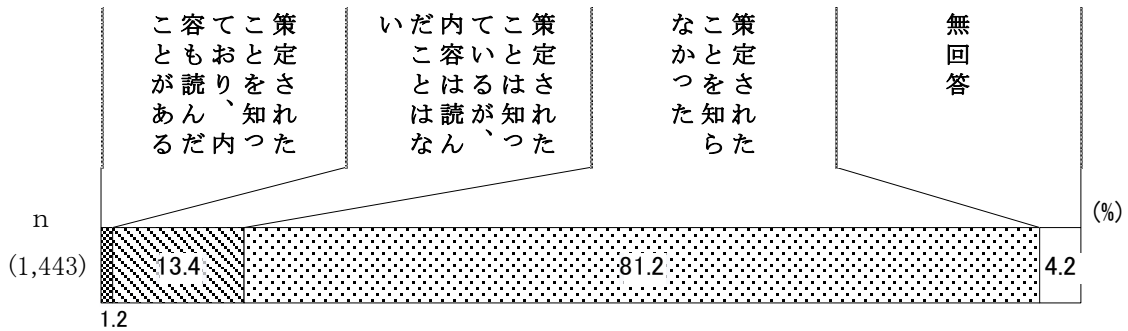
（３）昭島市のまちづくりにおいて、重点的に進めていくべき施策



「防犯・防災対策の充実」（37.8%）が４割近くで最も高かった。以下、「高齢社会への対応、高齢者福祉の充実」（37.6%）、「水や緑など自然環境の保全」（30.6%）、「健康づくりや医療、保険などの充実」（29.5%）、「児童福祉、子育て支援の充実」（26.7%）、「ごみ処理・リサイクル、節電、省エネなど地球環境の保全」（22.2%）の順になっている。

１７．公共施設

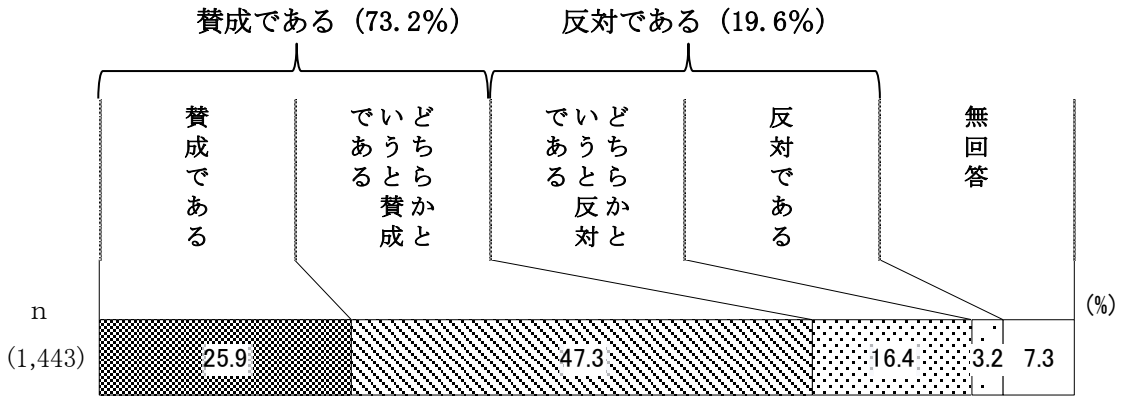
（１）昭島市公共施設等総合管理計画の認知度



「策定されたことを知らなかった」（81.2%）が８割以上で最も高かった。

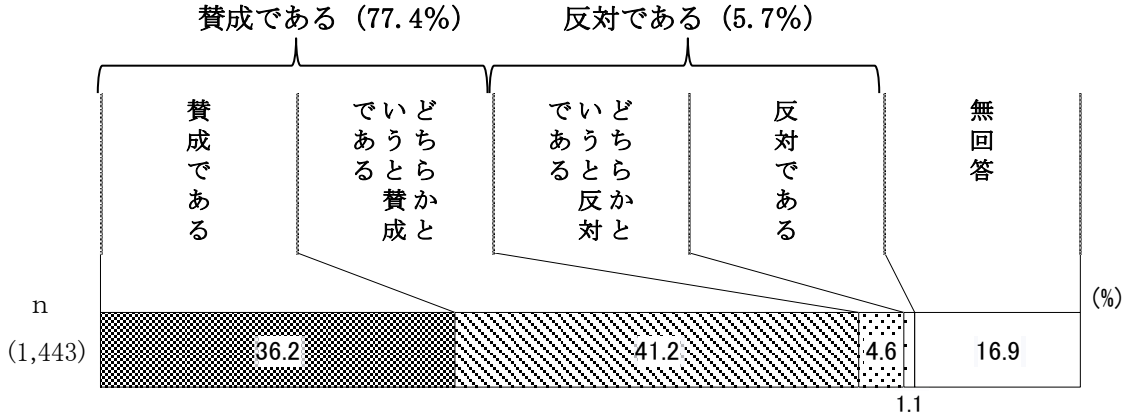
一方、「策定されたことは知っているが、内容は読んだことはない」（13.4%）が１割以上、「策定されたことを知っており、内容も読んだことがある」（1.2%）は１割未満となっている。

（２）新施設建設抑制への考え



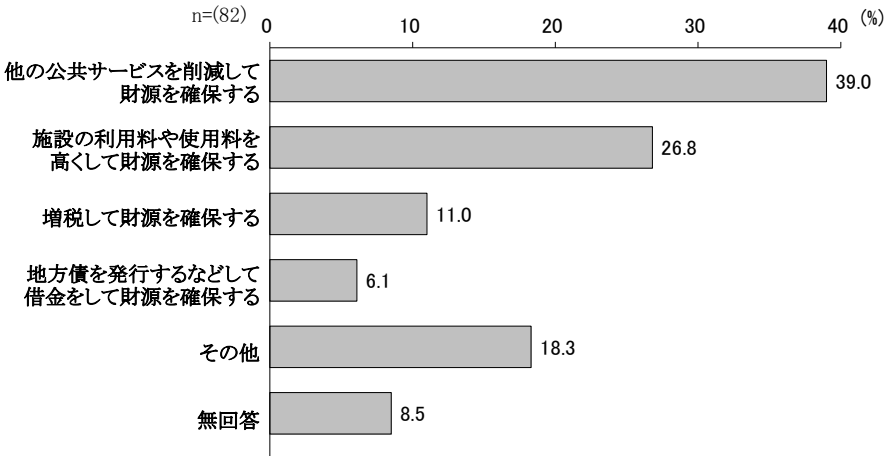
「賛成である」（25.9%）と「どちらかというと賛成である」（47.3%）を合わせた『賛成である』（73.2%）は７割以上となっている。一方、「どちらかというと反対である」（16.4%）と「反対である」（3.2%）を合わせた『反対である』（19.6%）は約２割となっている。

（３）公共施設の「複合化」や「多機能化」への考え



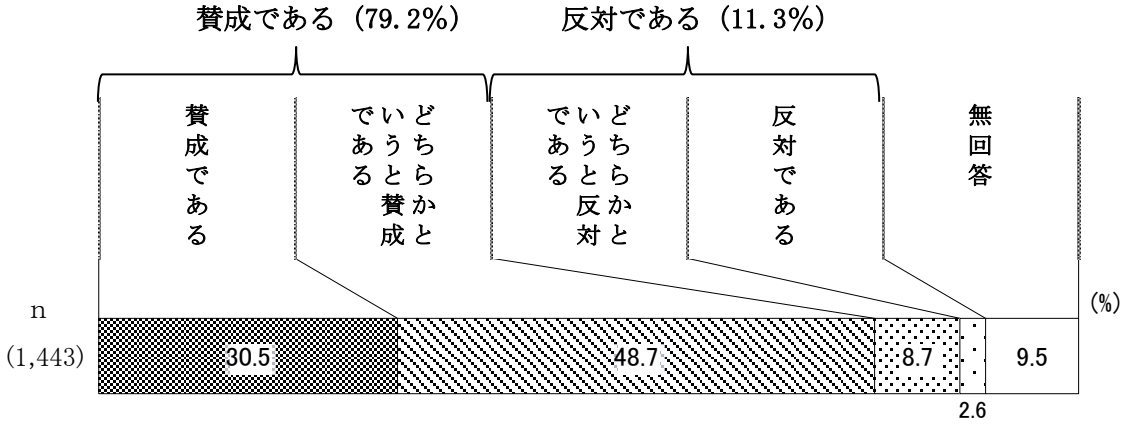
「賛成である」（36.2%）と「どちらかというと賛成である」（41.2%）を合わせた『賛成である』（77.4%）は８割近くとなっている。一方、「どちらかというと反対である」（4.6%）と「反対である」（1.1%）を合わせた『反対である』（5.7%）は１割未満となっている。

（４）限られた財源の中で公共施設を維持するためにすべきこと



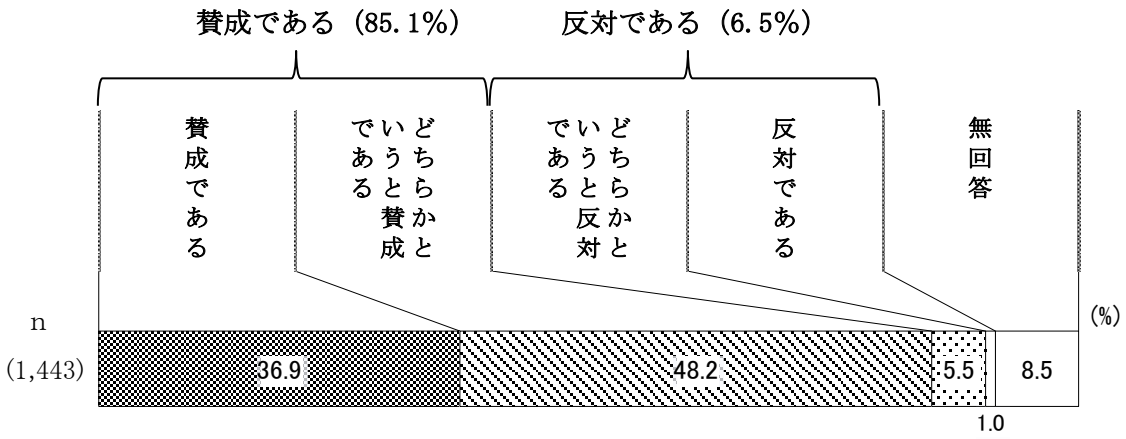
（３）で「どちらかというと反対である」または「反対である」と回答した82人に、限られた財源の中で公共施設を今までどおり維持または増やすためにすべきことについて聞いたところ、「他の公共サービスを削減して財源を確保する」（39.0%）が約４割で最も高かった。次いで、「施設の利用料や使用料を高くして財源を確保する」（26.8%）が高くなっている。

（５）公共施設の「集約化」への考え



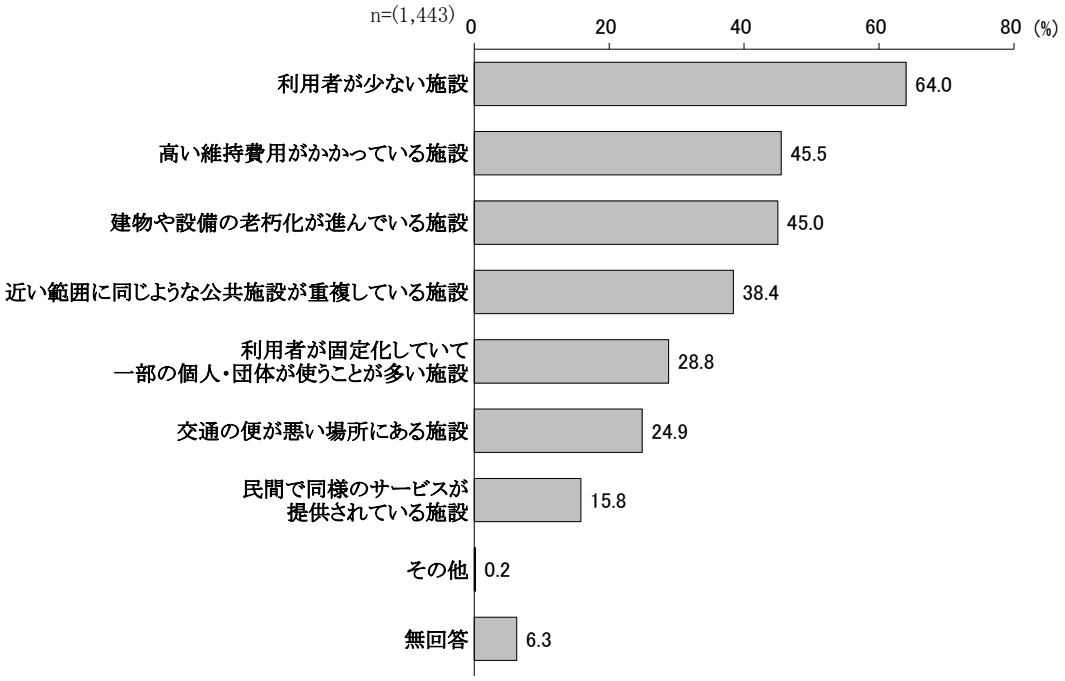
「賛成である」（30.5%）と「どちらかというと賛成である」（48.7%）を合わせた『賛成である』（79.2%）は約８割となっている。一方、「どちらかというと反対である」（8.7%）と「反対である」（2.6%）を合わせた『反対である』（11.3%）は１割以上となっている。

（６）公共施設の「長寿命化」への考え



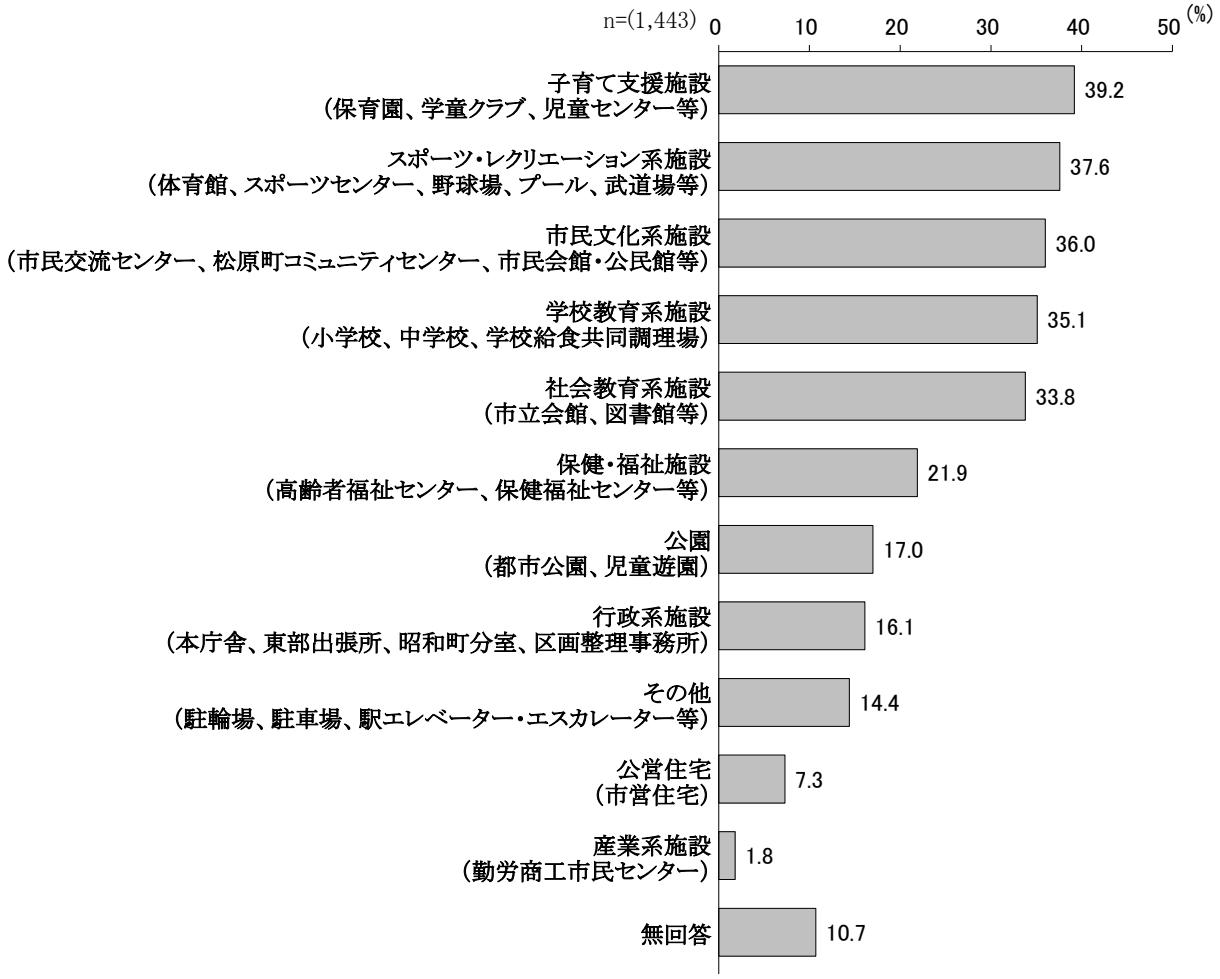
「賛成である」（36.9%）と「どちらかというと賛成である」（48.2%）を合わせた『賛成である』（85.1%）は８割半ばとなっている。一方、「どちらかというと反対である」（5.5%）と「反対である」（1.0%）を合わせた『反対である』（6.5%）は１割未満となっている。

（７）重点的に見直すべき施設



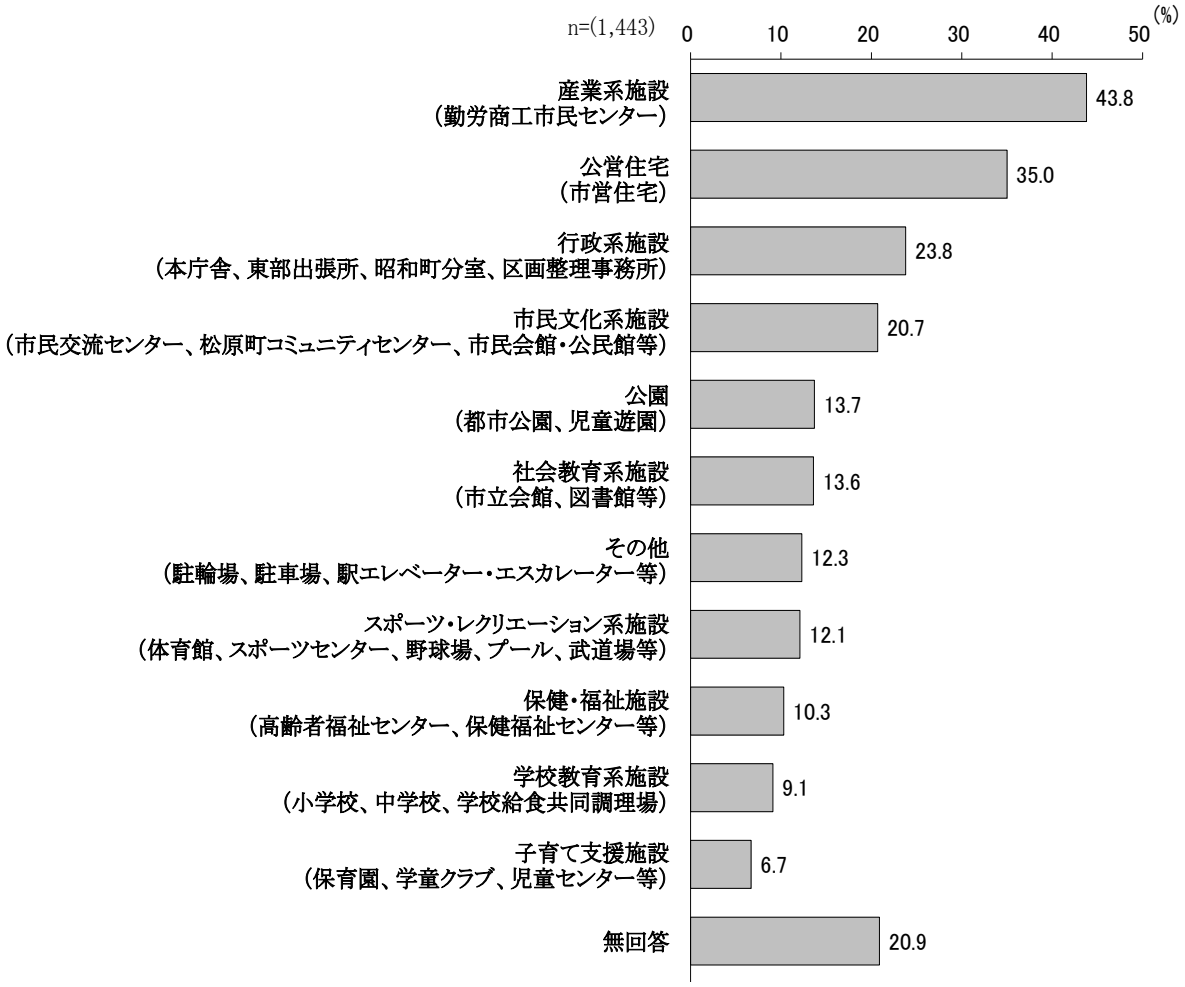
「利用者が少ない施設」（64.0%）が６割半ばで最も高かった。以下、「高い維持費用がかかっている施設」（45.5%）、「建物や設備の老朽化が進んでいる施設」（45.0%）、「近い範囲に同じような公共施設が重複している施設」（38.4%）の順になっている。

（８）市が将来にわたり優先的に維持すべき施設



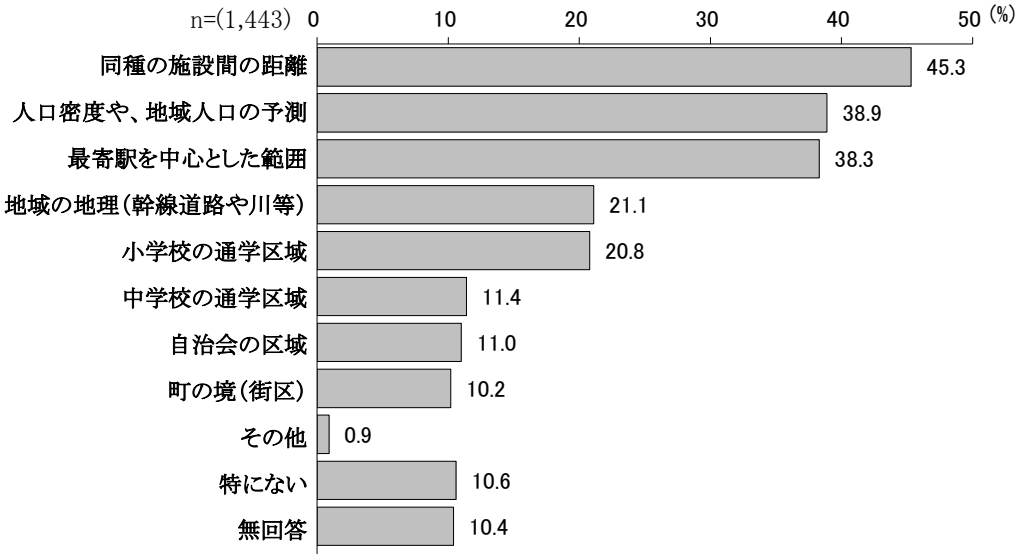
「子育て支援施設（保育園、学童クラブ、児童センター等）」（39.2％）が約４割で最も高かった。以下、「スポーツ・レクリエーション系施設（体育館、スポーツセンター、野球場、プール、武道場等）」（37.6％）、「市民文化系施設（市民交流センター、松原町コミュニティセンター、市民会館・公民館等）」（36.0％）、「学校教育系施設（小学校、中学校、学校給食共同調理場）」（35.1％）、「社会教育系施設（市立会館、図書館等）」（33.8％）の順になっている。

（９）市が将来にわたり優先的に見直すべき施設



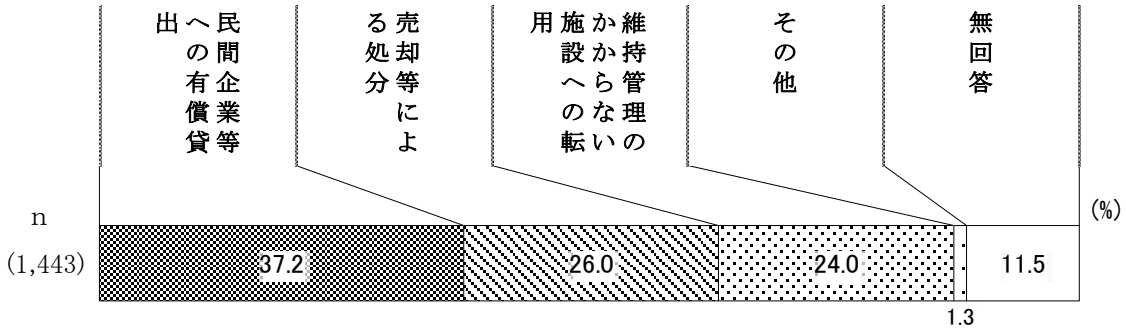
「産業系施設（勤労商工市民センター）」（43.8％）が４割以上で最も高かった。以下、「公営住宅（市営住宅）」（35.0％）、「行政系施設（本庁舎、東部出張所、昭和町分室、区画整理事務所）」（23.8％）、「市民文化系施設（市民交流センター、松原町コミュニティセンター、市民会館・公民館等）」（20.7％）の順になっている。

（１０）再配置の際に優先すべき基準や範囲



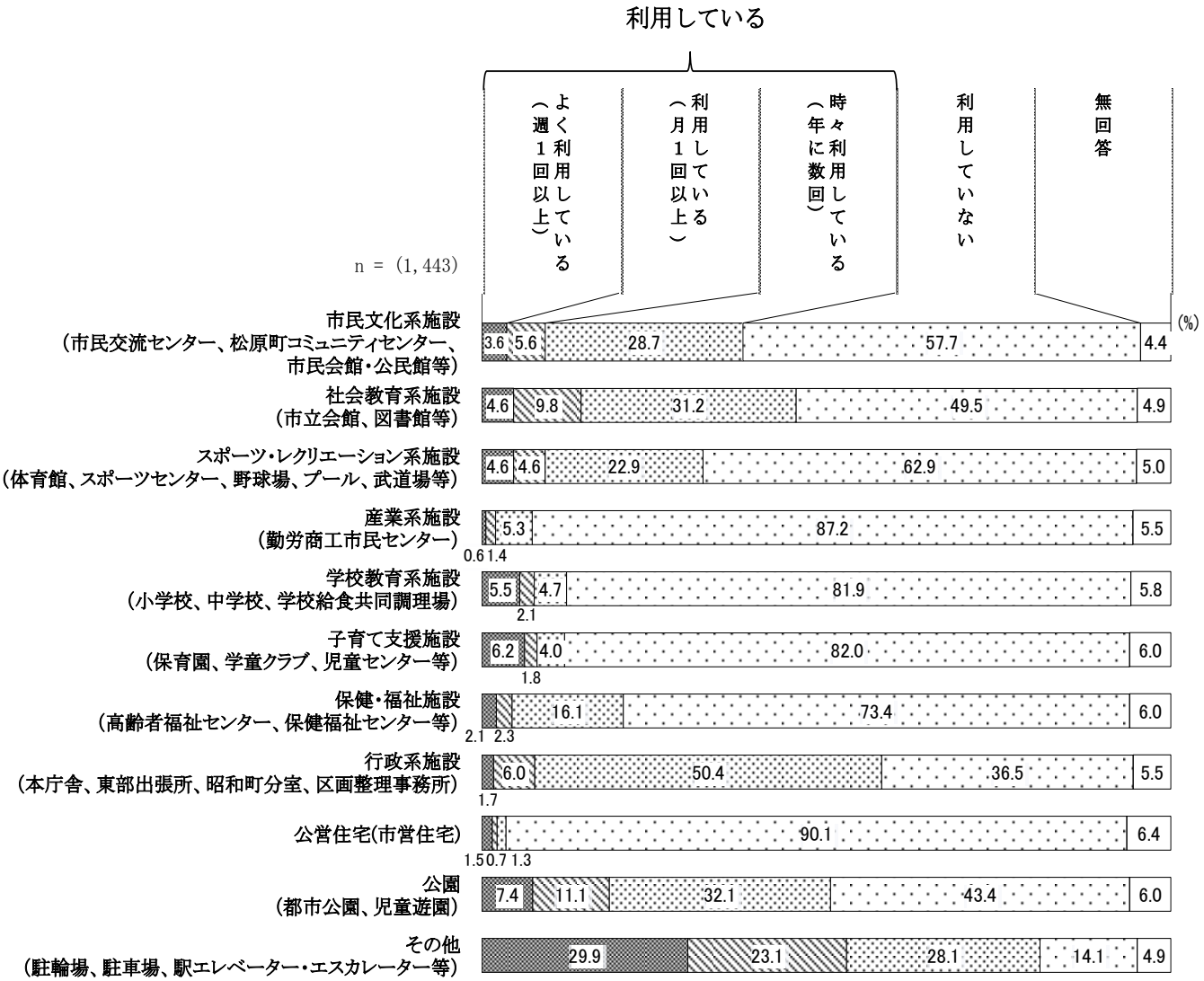
「同種の施設間の距離」（45.3%）が４割半ばで最も高かった。以下、「人口密度や、地域人口の予測」（38.9%）、「最寄駅を中心とした範囲」（38.3%）の順になっている。

（１１）再配置後に使用しなくなる施設の有効利用法



「民間企業等への有償貸出」（37.2%）が４割近くで最も高かった。以下、「売却等による処分」（26.0%）、「維持管理のかからない施設への転用」（24.0%）の順になっている。

（１２）市内の公共施設の年間利用状況



「よく利用している（週１回以上)」と「利用している（月１回以上)」と「時々利用している（年に数回)」を合わせた『利用している』と回答した割合が高い項目は、「その他（駐輪場、駐車場、駅エレベーター・エスカレーター等)」(81.1%)、「行政系施設（本庁舎、東部出張所、昭和町分室、区画整理事務所)」(58.1%)、「公園（都市公園、児童遊園)」(50.6%）となっている。

昭島市　市民意識調査　概要版

平成 31 年 1 月

発行：昭島市企画部総合基本計画担当
〒196-8511　東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
TEL：042-544-5111（代表）

調査実施：株式会社サーベイリサーチセンター